

共同教育学部

系・専攻	名前	フリガナ	ページ	
教育人間 科学系	教育	上原 秀一	ウエハラ シュウイチ	73
		関口 健一	セキグチ ケンイチ	74
		長谷川 万由美	ハセガワ マユミ	75
		丸山 剛史	マルヤマ ツヨシ	76
	教育心理	石川 隆行	イシカワ タカユキ	77
		川原 誠司	カワハラ セイシ	78
		久保田 愛子	クボタ アイコ	79
		宮代 こずゑ	ミヤシロ コズエ	80
	特別支援教育	石川 由美子	イシカワ ユミコ	81
		齋藤 大地	サイトウ ダイチ	82
		福田 奏子	フクダ カナコ	83
人文社会系	国語	鈴木 啓子	スズキ ケイコ	84
		高井 太郎	タカイ タロウ	85
		守安 敏久	モリヤス トシヒサ	86
		熊田 禎介	クマタ テイスケ	87
	社会	黒川 亨子	クロカワ キョウコ	88
		小原 一馬	コハラ カズマ	89
		下田 淳	シモダ ジュン	90
		高山 慶子	タカヤマ ケイコ	91
		松村 啓子	マツムラ ケイコ	92
		天沼 実	アマヌマ ミノル	93
	英語	五十嵐 奈央	イガラシ ナオ	94
		岩崎 宏之	イワサキ ヒロユキ	95
		田所 貴大	タドコロ タカヒロ	96
		川上 貴	カワカミ タカシ	97
自然科学系	数学	佐々木 優	ササキ ユウキ	98
		鈴木 拓	スズキ タク	99
		牧野 智彦	マキノ トモヒコ	100
		井口 智文	イノクチ トモフミ	101
	理科	瀧本 家康	タキモト イエヤス	102
		出口 明子	デグチ アキコ	103
		夏目 ゆうの	ナツメ ユウノ	104
		南 伸昌	ミナミ ノブマサ	105
	技術	川島 芳昭	カワシマ ヨシアキ	106
		松原 真理	マツバラ マリ	107

共同教育学部

系・専攻	名前	フリガナ	ページ	
芸術・生活 ・健康系	音楽	新井 恵美	アライ エミ	108
		木下 大輔	キノシタ ダイスケ	109
		高島 章悟	タカシマ ショウゴ	110
		平井 李枝	ヒライ リエ	111
	美術	梶原 良成	カジハラ ヨシナリ	112
		株田 昌彦	カブタ マサヒコ	113
		本田 悟郎	ホンダ ゴロウ	114
		松島 さくら子	マツシマ サクラコ	115
	保健体育	石井幸司	イシイ コウジ	116
		石塚 諭	イシヅカ サトシ	117
		加藤 謙一	カトウ ケンイチ	118
		久保 元芳	クボ モトヨシ	119
家政	松浦 佑希	マツウラ ユウキ	120	
	良 香織	ウシトラ カオリ	121	
	カバリエロ 優子	カバリエロ ユウコ	122	
	佐々木 和也	ササキ カズヤ	123	
教育学研究科 教育実践高度化専攻	青柳 宏	アオヤギ ヒロシ	124	
	石島 隆志	イシジマ タカシ	125	
	岡澤 慎一	オカザワ シンイチ	126	
	小野瀬 善行	オノセ ヨシユキ	127	
	小原 伸一	コハラ シンイチ	128	
	司城 紀代美	シジョウ キヨミ	129	
	田村 岳充	タムラ タカミツ	130	
	人見 久城	ヒトミ ヒサキ	131	
	日野 圭子	ヒノ ケイコ	132	
	和井内 良樹	ワイナイ ヨシキ	133	



分野 教育学

研究テーマ ・教育における言語と思考
・小中学校における道徳教育と道徳科授業
・学校教育の日仏比較

キーワード 言語, 思考, 道徳教育, 道徳科, フランス

所属学会等 日本教育学会、日本言語技術教育学会、日本道徳教育学会、
フランス教育学会

特記事項 —



URL: www.utsunomiya-u.ac.jp

Mail: [suehara\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:suehara[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

TEL: 028-649-5339

研究概要

教育における言語と思考の関係に関心を持って理論研究を行っています。この理論研究を応用して、小中学校における道徳科授業の実践研究に取り組んでいます。また、フランスの教育事情について調査研究に取り組んでいます。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

研究活動では、具体的には、次の二つの共同研究に取り組んでいます。

・宇都宮大学共同教育学部附属学校園の道徳科プロジェクト研究「物事を多面的・多角的に考える」道徳科の授業」の主任として、小中学校における道徳科の授業実践研究に取り組んでいます。小中学校の道徳授業は、平成27年の学習指導要領一部改正により、教科外活動「道徳の時間」から「特別の教科 道徳（道徳科）」へと移行しました。「特別の教科」への移行の趣旨を十分に生かした授業モデルを学校現場に提案するべく、「物事を多面的・多角的に考える」という理念に着目した新しい授業の開発を行っています。

・科学研究費補助金基盤研究(C)「道徳教科化の日仏比較」の研究代表者として、フランスの小中高校における「道徳・公民科 (enseignement moral et civique)」の研究に取り組んでいます。この「道徳・公民科」は、我が国と同じ2015（平成27）年にフランスで新設された必修教科です。日本とフランスにおける道徳授業の違いを明らかにしようとしています。

教育活動では、宇都宮大学・群馬大学共同教育学部で必修科目の「教育原論」と「道徳教育授業論」を担当しています。また、宇都宮大学の基盤教育科目「論理的思考」を担当し、作文を通じて論理的思考を強化する授業を行っています。

今後の展望

上記の二つの共同研究の成果を社会に還元できるよう、様々な機関と連携していきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

小中学校における道徳科の校内授業研究に対する支援を行っています。栃木県から派遣される内地留学生を受け入れ、道徳科授業の研究を支援しています。



分野 教育実践、教科教育、教員養成

研究テーマ ・授業づくりと授業研究
・大学と現場を繋ぐ教員養成

キーワード 授業研究、学習指導、児童生徒指導、教育実習

所属学会等 北関東体育学会、日本発育発達学会

特記事項 —



URL: -
Mail: knic[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5338

研究概要

学校現場の視点から、児童指導や学習指導について考えたり、授業研究を行ったりするなど、実践的に取り組むとともに、子どもの健やかな成長を促すための、その時代や状況に合わせた適切な方法を追究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

公立小学校教諭、宇都宮大学共同教育学部附属小学校教諭を経て、実務家教員として現職に就いています。附属小学校では、主に教育実習主任を務め、現場において教職を志す学生への指導を行ってきました。授業では実務経験を活かし、具体的事例等を基にした内容を展開することができるように心掛け、教員養成を担う教員として、教育実習における学生への指導に積極的に関わるようにしています。

今後の展望

共同教育学部の学生への教育とは、子どもの健やかな成長を促すための、その時代や状況に合わせた適切な方法を追究しつつ、教師としての後進を育てていくことです。そのために、現場をベースとした教員としての経験と理解を、学生の教育へと活用していきたいと考えています。教師の仕事の魅力ややりがいについて、自分の経験を基に伝えることで学生の教職志向の向上を目指すとともに、学生の教員としての資質・能力を育て、「学ぶもの全員がよき教師になれる」教育を実践していきたいと考えています。

現場で教育実習を担当される先生方の中には、「何を指導すればよいのか分からない」「どう指導すればよいのか分からない」という先生もいらっしゃるかもしれません。教育実習生の中には、教職に期待と希望をもち、前向きに実習に取り組む学生がいる一方で、自分が教職に向いているのか、不安を抱えながら実習に臨む学生もいます。これまでの経験で得られた成果や課題を踏まえ、実習生が安心して実習に臨むことができるようにするとともに、教育実習を円滑に進めることができるよう、各学校へのサポートもしていきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

指導教員のための教育実習指導資料作成 県内各学校へ配付
日本学校保健会 保健学習推進委員会 委員
文部科学省 小学生用食育教材作成委員会 委員
県内公立小学校 道徳科授業づくりと評価に関する校内研修会 講師
県内給食主任・栄養教諭等研修会 講師 等

**分野** 社会福祉

研究テーマ

- ・アートと福祉のまちづくり
- ・子育てバリアフリー
- ・災害弱者と地域防災

キーワード まちづくり, バリアフリー, シティズンシップ教育, 地域防災

所属学会等 日本福祉のまちづくり学会、日本社会福祉学会、日本地域福祉学会、アートミーツケア学会

特記事項 —



URL: -

Mail: mayumit[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

地域福祉を専門としており、地域で生活する多様な立場の方々がその人らしく生活するためにどうしたらいいかテーマに様々な研究をしています。また、まちづくり、地域づくりの媒介としてのアートの効用に着目し、ダンス、ドラム、アート表現などを通したまちづくりや仲間づくりにつながる活動もしています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

授業や卒論・修論研究、内地留学生研究などで、学生や院生がそれぞれのテーマを見つけ、深められるような支援を心掛けています。

今後の展望

地域の福祉ニーズに即した研究を心掛けたいと思います。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

とちぎ子どもの未来創造大学で「世界の楽器」「がれきを使ったフォトフレームづくり」の講座を開いています。附属幼稚園や附属特別支援学校で、積み木や楽器を使って授業を行っています。栃木県障害者自立支援協議会、栃木県防災会議、下野市男女共同参画推進委員会、杉並区防災会議など行政の委員会の会長や委員を務めています。



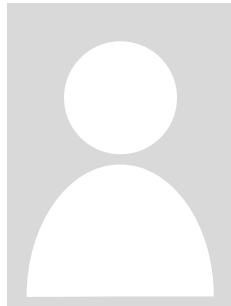
分野 教育学

研究テーマ ・新制中学校論研究
・戦後日本教育課程史研究
・日本教員養成史研究

キーワード 教育課程, 技術教育, 職業教育, 教員養成

所属学会等 日本教育学会、教育史学会、日本職業教育学会、日本カリキュラム学会、日本科学史学会、ほか

特記事項 —



URL: -

Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

専門は教育学、学校教育学、技術教育学。普通教育としての技術教育、すなわちすべての子どもが受けることになっている技術教育のあり方に関心をもっています。ユネスコの技術・職業教育に関する条約等では、普通教育としての技術教育は、普通教育として不可欠な要素と考えられていますが、わが国では中学校技術・家庭科の技術分野でしか行われておらず、中学校でしか取り上げられておらず、しかも1教科としては成立していません。なぜ、このようなことになってしまったのか、その経緯を明らかにすることを主要な研究テーマとしています。具体的には、元文部省職員旧蔵文書の収集と整理、教育関係雑誌・雑誌記事の収集と整理に取り組みながら、経緯の解明に取り組んでいます。同じ問題を新制中学校教育課程史研究として、第二次大戦後日本の中学校教育課程について、学校経営案・学校要覧・教育課程表を集めながら実際の教育課程とその変遷を明らかにしています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

授業は、共同教育学部の共通的な科目として教育課程、教育方法、特別活動（教科外活動）に関する科目を担当しています。そのほか、生活科指導法、技術科指導法等も担当しています。教職大学院では実務家教員と複数で学級経営に関する科目を担当しています。授業では、実際にどのようなことが行われているか（行われてきたか）、当時の資料を見てもらう、現地に出かけて五感をつかってリアルに理解してもらうことを大切にしています。

資料の収集と整理を大切にしており、宇都宮大学附属図書館に文部科学省関係行政資料（各種教育関係審議会議事録など）、教科書（復刻版含む）を備え付けてきました。長年かけて集めた都道府県教育史は全国で最もよく揃っています。

今後の展望

引き続き、日本教育課程史研究に取り組み、宇都宮大学共同教育学部を教育課程研究・教科教育研究の拠点の一つにしたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

国立教育政策研究所・戦後教育改革資料編集に従事しました。クレス出版から刊行された文献資料選集の編集にも従事しました。多くの方に利用される教育関係資料の整理と公開に関心をもっています。

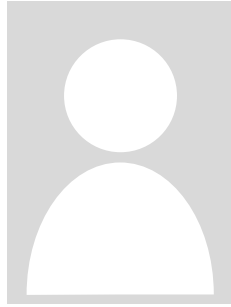
分野 発達心理学

研究テーマ ・ 幼児期から老年期までの社会性の発達
・ 自己意識的感情の発達の検討

キーワード 発達心理学, 社会性, 自己意識的感情

所属学会等 日本心理学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会 等

特記事項 -



URL: -

Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

専門は、発達心理学となります。発達心理学の領域を深めるために、これまで、子どもの社会性の発達に関わる感情的な側面に着目し、とくに罪悪感の発達の研究を展開してきました。罪悪感とは、人が悪事を犯した際に生じる感情であるため、従来、罪悪感が有する行動調整機能が着目されています。また、罪悪感をはじめとする子どもの社会性の発達には、家族や友達との関わりが重要であるため、それらの背景的要因の影響について検討しています。罪悪感を捉えるために、幼稚園児には図版を用いた面接調査、また児童から青年においては質問紙調査を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

大学では「発達心理学」「子ども理解の心理学」および「幼児教育相談」などの授業を担当しています。ここでは、学校教育に不可欠な子どもの発達の特徴の理解を深め、子どもの個性や社会性を育てる力を学生さんに考えて欲しいと思っています。「教わる」こともよりも、自ら「知る、考える」ことが求められる大学の授業では、学生さんが子どもの今日的課題を主体的に探求する姿勢が重要です。稚拙な授業ですが、学生さん自身が涵養しつつける子どもへの教育観の一助となりますことを切に願っています。

今後の展望

現在、自己意識的感情とされる罪悪感、恥などの育成をふまえ、幼稚園や学校などの教育現場において取り組める教育プログラムや教材の検討を行っています。また、家族関係において、どのような関わりが子どもの社会性を育むのかについて明らかにしています。さらに、子どもだけでなく、成人、老年期の罪悪感について検討し、超高齢化社会を迎える本邦において、寄与できる知見を提供したいと考えています。今後も、子どもから大人までの健全な心身の発達、人格の形成に資する研究活動ができればと思います。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

県、市における各種委員会に携わらせていただいております。自身の研究や学びが少しでもお役にたてればと思っています。

分野 教育相談, 臨床心理学, 学校心理学

研究テーマ ・子どもの精神的弾力性(レジリエンス)の涵養
・子どもへの相談・支援の仕方
・教師の精神的健康(メンタルヘルス)の維持

キーワード 教育相談, レジリエンス, メンタルヘルス, ソーシャル・サポート

所属学会等 日本教育心理学会, 日本心理学会, 日本発達心理学会, 日本学校メンタルヘルス学会, 日本児童青年精神医学会

特記事項 カウンセリングルーム(個人面談室・集団療法室)



URL: <https://uukyoshin.wixsite.com/uukyoshin>
Mail: kawahara[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

子どもの精神的弾力性(レジリエンス)のあり方や子どもへの相談・支援の仕方, また教師の精神的健康(メンタルヘルス)に関する研究を行っています。対人関係の側面からソーシャル・サポートに留意しながら支援方法を考えています。ここ数年は場所の流浪やコロナ禍での対面制約等のために実施できていませんが, 以前から教育相談に関する, あるいは子どもと触れ合う実践活動を行ってきました。



「あそびランド」

「不登校について学び・つながる会」



*画像については, 個人保護の観点から大きく加工してあります。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

「目立つ」「華々しく」「大きく全体に」「エビデンス」という近年の大学活動の表出方法からすると, 臨床心理的な実践活動は「ひっそりと(←守秘義務があるので)」「地道に」「少人数(それほど多くない相手)」「数値に頭れにくい(計量しづらい)」ことが多いです。それでも当人のQOLのために地道に関わり, 働きかけることはとても意義深いことだと思っています。以下のような教育実践に関する活動報告や論考を参考にしてください。

- | | |
|---|---|
| http://hdl.handle.net/10241/00012416 | http://hdl.handle.net/10241/00005394 |
| http://hdl.handle.net/10241/00005041 | http://hdl.handle.net/10241/00005086 |
| http://hdl.handle.net/10241/00011146 | http://hdl.handle.net/10241/00011145 |
| http://hdl.handle.net/10241/00005096 | http://hdl.handle.net/10241/00004546 |

今後の展望

子どもや教師の精神的健康について学術的な研究を行っていくと同時に, 子どもや保護者, 教師を対象とした実践的な活動をおこなっていきたくと思っています。カウンセリングのような話が中途半端に伝わっていくと, 「表面的に優しい様子」といったものが受容であるといった誤解が広まり, 結局, 支援する側が苦慮することが起きます。共に考え, 実践する中で, その人へのより良い支援は何かを考えられればと願っています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

上の実践報告にもあるように, 大学のカウンセリングルームを活用した教育相談や臨床心理に関連した地域貢献活動をおこなってきました。また, 学校関係者や保護者, 心理関係者への講演等も多数おこなってきました。



分 野 教育心理学

- 研究テーマ**
- ・学校行事を通じた児童生徒の社会情緒性の発達
 - ・学校行事や特別活動における教師の支援
 - ・社会情緒性の発達に関わる諸研究



キーワード 特別活動, 学校行事, 教育心理学

所属学会等 日本心理学会, 日本教育心理学会, 日本発達心理学会, 日本特別活動学会, 日本学校心理学会, 日本パーソナリティ心理学会

特記事項 —

URL: -

Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

運動会・体育祭や学芸会・文化祭といった学校行事を通して、児童・生徒がどのように発達していくのか、そして、そこに教師は、どのような形で支援を行っているのかを質問紙（アンケート）や面接（インタビュー）、観察を通して検討しています。

また近年では、学級活動の授業を観察させていただき、そこでの子どもたちのやりとりや教師の支援についても、研究させていただくことがあります。特別活動を専門とする学校の先生方の研究会に参加させていただき、共に勉強させていただくこともあります。

その他、児童生徒～成人の社会情緒面の発達に関わる質問紙調査に携わり、その発達とその背景プロセスを検討する研究も行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育面では、具体的な場面に引き付けながら心理学の知識・理論の理解を深めてもらいたいと考えています。そのため授業では、他の人とペア・グループワークを行うことを通して、自分の考えを表現することはもちろん、他の人の考えを知り、自身の考えを深めることも重視しています。

研究面では、心理学の研究手法を用いた検討を行っている点が特徴的で、心理尺度を取り入れた質問紙（アンケート）研究を行うことが多いです。中でも、縦断研究といわれる、いわゆる追跡調査に関心をもっており、児童生徒を数か月、数年単位で追跡していき、その成長・発達の背景プロセスに迫る研究を複数行っています。

今後の展望

今後、児童生徒の学校行事（特に運動会）の前後、そして、その数か月、数年後の成長を追跡していく質問紙（アンケート）調査を行いたく思っており、きめ細やかな心理学的調査に協力していただける学級や学校があると有難く思っています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

高校生に向けた心理学関係の模擬授業を行っています。

その他、小学校の学校評価委員や国立教育政策研究所のプロジェクト研究の調査に携わらせていただいています。

**分野** 認知心理学

研究テーマ ・文字および音声もたらす感性情報について
 ・感性情報処理と言語情報処理の相互作用に関する研究
 ・情報の受け手の立場から言語的コミュニケーションを捉える試み

キーワード 適切な情報デザイン, 実験による効果検証, 遠隔コミュニケーション

所属学会等 日本教育心理学会、日本認知心理学会、Cognitive Science Society 等

特記事項 認知心理学実験により、教材・教授法の効果について実証研究が可能です。



URL: -

TEL: 028-649-5344

Mail: miyashiro[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

情報化社会である現代では、様々な情報があふれています。それらの情報をより効率的に伝えるためには、人間の情報処理過程にまで踏み込んだ研究が必要です。近年では新型コロナウイルス感染拡大の影響により、遠隔でのコミュニケーション（ビデオ通話等）も一般的となってきましたが、その際にどのような情報を提示すべきか、あるいは提示すべきでないのか（提示することで情報処理をむしろ阻害してしまう可能性が無い）については、まだ研究の知見があまり多くありません。こうした問題点について、心理学実験の手法と統計的分析を用いて人の認知過程に踏み込んで解明していくことを目指しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

情報化社会と言われて久しい現代では、とかく「情報が多ければ多いほど良い」とみなされがちですが、それは心理学の知見には反しています。いかに情報をデザインすべきか？ どうしたらもっと情報を「よく伝える」ことができるのか？ こうした問題は、私たち一人ひとりが日常で対峙する問題でもあり、軽視してしまうと重大なミスや誤解を招いてしまいます。特に、「受け手にとっての情報の見えかた」にまで踏み込んだ研究をすることで、目指すべき情報提示や、コミュニケーションのメカニズムの解明を目指しています。

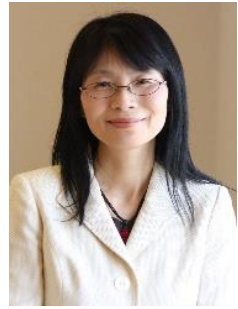
また、自分の専門のみに限らず、学内外の多くの方と協働をしながら様々な問題解決に取り組んでいます。

今後の展望

これまでは主に大学生を対象とした研究を行ってきました。今後はもっと対象を広げることで、例えば特定の領域の学習に困難を抱えた方への支援や、様々な年齢層におけるコミュニケーションの研究などへもつなげていこうと考えております。研究や教材開発のためにご協力くださる企業・自治体がありましたらお声かけいただけますと幸いです。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

大学と地域とを結び、一緒になって発展していける活動に取り組んでいきます。

**分野** 臨床発達心理学, 障害児心理学**研究テーマ** ・共に生きるかたちの心理学
・Storytime(読み合い遊び)と子どもの育ちに関する研究
・絵本や人形パフォーマンスを心理的道具とした保育・教育の開発研究**キーワード** 共に生きるかたち、インクルージョン、storytime(読み合い遊び)、絵本、人形劇、問主観性、fNirs、脳活動、発達順序性(オーダリングアナリシス)、物語性、意味の脈略、ZPD、意味づくり**所属学会等** 日本特殊教育学会、日本教育心理学会、日本発達心理学会、日本子ども学会、国際幼児教育学会、国際情報学会、日本保育学会等 障害科学学会、臨床発達心理士会**特記事項** [臨床現場で脳活動を計測するために携帯用のfNirsを利用しています]
[インクルーシブ環境で、障害のある子もいない子もそして大人も豊かに生きることを目指して人と人が生き合う場の意味づくりの世界を明らかにしたいなと思います]URL: <http://curimuchiek-cafe.net/>

TEL: 028-649-5349

Mail: [ym_ishikawa \[at\] cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:ym_ishikawa[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

研究の一部分を紹介します。

Storytime (読みあい遊び) は、子どもの生活経験と関連した絵本の読み合いと、絵本の文脈を想起しやすい環境での遊びにより、大人と子どものZPD(最近接発達領域)が生じやすい。この文脈での関わりから言語や社会性の発達を促すことが示唆されている。Storytime (読みあい遊び) の環境で遊ぶことで、子どもたちは他者の行動の理由、目標や意図の理解を発達させることが期待された。これらの活動は、前頭前野の下前頭回はミラーシステムの一部と関係があると予測された。そこでStorytime(読みあい遊び)と言語やミラーシステムなどの社会性認知との関連を明らかにするため、絵本の読み合い時の前頭前野の脳血流変化についてfNirsを用いて検討を行った。例えば「めとめがあったら」でも身体各部の動きというより動物の全身運動や視線の共有が描かれている。それにもかかわらず右前頭前野が活動していたことは、ミラーシステムとは別の社会性認知のシステム(表情や共同注視、あるいは情動)が駆動されていた可能性が示唆される。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

「臨床現場に出て研究をする」というモットーでこれまで研究を続けてきました。地域では赤ちゃんの子育て支援から、保育園での保育者および園児の発達支援、ニーズのある園児の保育相談、特別支援学校、高校の教育相談まで、乳幼児から青年期までの子どもと大人のあらゆる問題を臨床で体験しながらその現場の人々と共に活動し、人々の生きるかたちを捉える試みをしてきました。この経験と強みを活かし、教育では、学部から博士後期課程の大学院生まで、身体を通して理解すること、対話することを重視した教育を実践したいと日々考えてきています。臨床現場の物語を語ることを折に触れ実践し、答えのない世界を共に生きることを大切にしています。

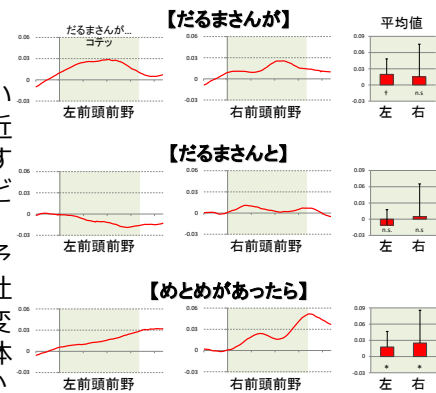
今後の展望

発達心理学をベースとした研究であるので、研究概要に一部紹介したような実証研究をするのはもちろんだが、上述したように、地域の人々をつなぎ共に生きるかたちを描き出すような質的研究を行う。心理学にもっと生活者の視点からの研究を取り入れたいと考えている。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

1) 地方公共団体および一般社団法人などとの連携で保育園等の園への保育者支援、および保育者が気にかかるお父さんの支援とフォローを行う。2) Storytimeの知見を利用し親子の健康発達支援をめざし、企業と共同研究を進めていく。3) 図書館の読書推進活動に協力しStorytimeを用いた子育て支援と認知発達研究に取り組む。

Storytimeの知見は、幼保小の架け橋プランとして効果があるのではないかと考えている。そのような取り組みに興味のある教育機関や自治体があれば研究フィールドを提供していただけるとありがたいと思います。



3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

16 平和と公正をすべての人に

分野 特別支援教育

研究テーマ

- ・知的障害教育におけるICT活用
- ・知的障害教育における道徳教育実践
- ・心理教育的アセスメントの開発及び活用

キーワード ICT, 道徳, アセスメント

所属学会等 日本特殊教育学会、日本LD学会、日本K-ABCアセスメント学会、日本発達障害学会

特記事項 学校心理士、特別支援教育士スーパーバイザー



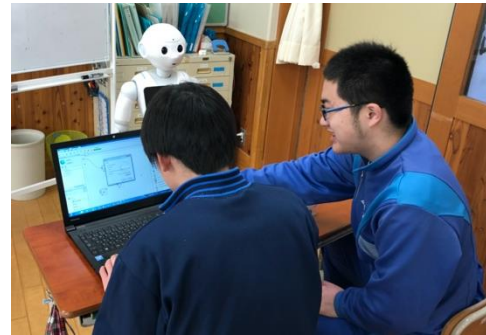
URL: -
Mail: daichis[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5346

研究概要

【知的障害教育におけるICT活用】

一人一台端末時代の到来によって、知的障害特別支援学校においても子供達がICTに触れる機会が絶対的に増加しました。同時に、使いすぎや個人情報の流出などの情報モラルに関するトラブルも起きています。これまでの情報モラル教育は情報社会の影を担う存在として、抑圧的な指導が行われがちでしたが、知的障害児者がICTを積極的に使う未来を想定した場合、情報モラルの指導の在り方は検討する必要があります。そこで、現在では「一人一人がICTのより善い使い手になること」を目指し、新たな情報モラルのカリキュラム及び指導法を開発しています。



【知的障害教育における道徳教育実践】

道徳の教科化により、道徳科を設置する知的障害特別支援学校が増えました。しかしながら、言語への依存度の高い道徳科は、言語や抽象的思考に弱さのある知的障害児にとっては様々な壁があります。そこで、現在では全国調査によって明らかになった現状と課題をもとに、知的障害特別支援学校の先生との共同研究を通し、効果的な道徳教育の在り方について実践的に研究を進めています。

【心理教育的アセスメントの開発及び活用】

特別支援教育においては、子供の正確な実態把握のためにWISC-IVやKABC-IIなどを用いたアセスメントが実施されています。これらのアセスメントでは、子供の現在の能力（何ができるのか）を把握することが可能です。これまで、アセスメントの結果を指導にいかにつなげるかについて実践を重ねてきました。近年では、アセスメントにおいて、子供の学習の可能性（どうすればできるのか）を把握することができれば、結果をより指導に結びつけやすくなるのではないかと考え、ダイナミック・アセスメントについて研究を実施しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

知的障害教育におけるICT活用に関して、これまでソフトバンクやマイクロソフトと共同研究を実施してきました。学校や企業と共同し、知的障害児者の豊かな生活に向け、ICTの新たな活用法を実践的に検討したいと考えています。

今後の展望

地域の学校や企業との共同研究を通じて、特別支援教育の発展に寄与したいと考えております。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

特別支援学校での勤務経験を活かし、特別支援学校等において授業づくりを共に進めたり、公開研究会での指導助言を行ったりしています。また、実際にプログラミングや情報モラルに関する授業を特別支援学校で実施しています。特別支援学校や教育委員会等において、ICT活用や道徳教育等に関する講演を行っています。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

分野 特別支援教育

研究テーマ ・視覚障害幼児の発達を促す教材・教具の開発
・視覚・知的重複障害児の指導法の開発
・視覚障害児へのアセスメント活用

キーワード 視覚障害, 盲児, 弱視児

所属学会等 日本特殊教育学会, 日本弱視教育研究会, 視覚障がい乳幼児研究会, 日本リハビリテーション連携科学学会

特記事項 学校現場における視覚障害児のアセスメントなども行っています。



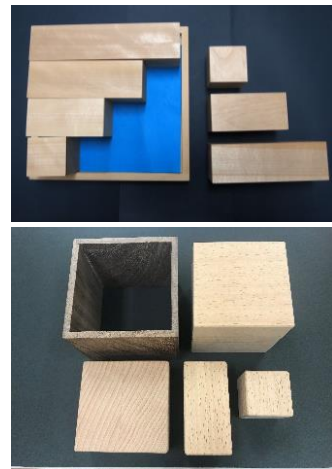
URL: [http:// office-sashima.org/](http://office-sashima.org/)

TEL: 028-649-5345

Mail: k-fukuda [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

視覚障害とは、目が見えない、あるいは見えにくいという障害です。視力だけでなく、見える範囲やまぶしさの有無など、視覚障害による見え方は人それぞれです。視覚障害のある子どもたちは、特別支援学校だけでなく、通常学校にも在籍しています。そのような子どもたちが専門的な指導が受けられるように、より良い指導法や、よい分かりやすい教材・教具を開発する研究をしています。具体的には、触って分かりやすい教材・教具の開発をして特別支援学校で実験をしたり、視覚障害のある子どもを実際に指導したりして、研究としてまとめています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

私自身が、大学時代に授業を受けていた時、視覚障害がどのようなものかイメージが付きにくいという思いを持っていました。授業の中では、アイマスクをしながら歩行体験をしてみたり、弱視シミュレーションをしながら黒板を見てみたりするなど実際に体験して、少しでもイメージがつくように工夫しています。また、視覚障害当事者をゲスト講師に招いて、実際の生活について話を聞いたり、受講生が自分たちにできることを話し合ったりする活動をしています。



今後の展望

学校現場と連携して、教材・教具を活用した指導事例を増やしていきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

小学生を対象に出前授業を行い、視覚障害者が使用している道具の紹介や、ゴールボール体験を実施しました。筑波大学佐島毅准教授と一緒にコイデ東京(株)と協力して、「Th!nk w!th Hands!」という触って分かりやすい教具を開発しました

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

共同教育学部 教授 ^{すずき} ^{けいこ} 鈴木 啓子
人文社会系 国語分野 国文学・日本近代文学

分野 日本近代文学

研究テーマ ・泉鏡花文学の成立と受容
・近代日本の小説史
・近代日本の幻想文学

キーワード 泉鏡花, 小説, 幻想, 古典文学, 古典芸能

所属学会等 日本近代文学会・日本文学協会・昭和文学会・宇都宮大学国語教育学会・泉鏡花研究会など。

特記事項 科研費補助金・基盤研究C「近代日本における「夢幻」「幻想」の系譜－泉鏡花文学の成立と受容の検証を基軸として－」(R2-5)



URL: -

TEL: 028-649-5257

Mail: suzukike [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

卒業論文以来、泉鏡花をメインテーマにしています。鏡花(1873-1939)は、日清戦争後の1895年、硯友社の新進作家として登場し、約50年の長きにわたって日本文壇の表舞台で活躍しました。近代リアリズムを主流とする文学史においては「異端」と評されますが、夏目漱石・谷崎潤一郎・芥川龍之介・川端康成・三島由紀夫らが「天才」と認めた作家であり、100年ののちに読み継がれ、世界的にも高い評価を得ています。鏡花文学の成立と受容(=どのように創られ、どのように読まれてきたか)を研究することは、日本近代文学のもう一つの側面、幻想ファンタジーの系譜、古典文芸の継承と再生、日本の伝統的な美意識や死生観の反映を、変動する時代状況に位置づけながら、個々の作品の表現機構に即して、ミクロの視点から問い直すことだと考えています。ミクロへの着眼が日本文化や近代科学文明を相対化するマクロの視点に通じると確信しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学部生にむけた授業では、「近代小説」の面白さを伝えたい。読むほどに多様な解釈が浮上し、思考の迷宮へと迷い込む愉しさを体感していただきたい。小中高等学校の教室で文学教材をあつかう際の基本姿勢や技能を学ぶことにもなるはずです。着任以来の27年間、教育学研究科で修論指導に携わってきましたが(多くのゼミ生が小中高の国語教員として活躍しています)、2020年度からは、地域創生科学研究科の多文化共生学プログラムで、海外からの院生とともに、漱石や鏡花や川端などを読んでいます。日本近代文学の日本的特質を、あるいは日本を超えた普遍的魅力を、国際的視野で捉え返すことになるのではないかとワクワクしています。

今後の展望

専門的な研究は泉鏡花を基軸に進めますが、日本近代文学の面白さを、一般社会に向けて、特に若い世代にむけて発信したいと願っています。鈴木啓子監修『マンガで楽しむ名作 日本の文学』(ナツメ社 2018)はその試みのひとつです。また、文学作品の舞台化や朗読劇にも関わっていきたくと考えています。文学作品が優れた俳優によって音声化される時、言葉には命が宿ります。言葉が「意味」だけでなく「身体性」を放つのです。言語文化をいかに豊かに享受するか、享受の様式を次世代に継承するか、これが私のテーマです。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

宇都宮大学教育学部附属幼稚園長(H25-27)、全国国公立幼稚園・こども園長会副会長(H27)、栃木県子どもの読書活動推進協議会委員(H24-27)、栃木県教科用図書選定審議会会長(H31-R2)、大学設置審議会文学専門委員会委員(H30-R2)、栃木市立美術館・文学館運営協議会委員(R3)など。

4 質の高い教育を
みんなに

8 働きがいも
経済成長も

10 人や国の不平等を
なくそう

分野 国語教育学

研究テーマ ・ I C T を活用した国語科授業の実践研究
・ 作文ワークショップの研究

キーワード 国語教育, I C T, 作文教育, ワークショップ

所属学会等 全国大学国語教育学会、日本国語教育学会、日本読書学会、
人文学教育学会、臨床教科教育学会

特記事項 I C T を活用した遠隔からの授業開発に挑戦しています。



URL: -

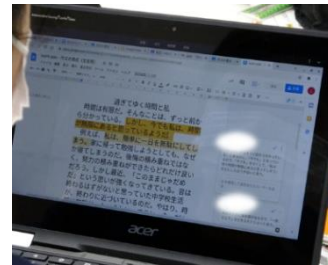
Mail: takai.taro [at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL:028-649-5259

研究概要

【テレビ電話による個別指導を取り入れた作文授業の開発】
遠隔からのチーム・ティーチングによる作文授業の開発を行っています。これまでには、公立学校の教諭や研究機関の専門家らをテレビ電話でつなぎ、授業を行ってきました。実践の分析を通して、効果的にチーム・ティーチングを行うための指導資料の作成も行ってきました。

【作文ワークショップの実践研究】
子どもたちが「好きなことを、好きなジャンルで、好きなように」書いていく作文ワークショップという授業の研究をしています。このような授業を実践すると、日本の子どもたちは「どのようなことを考え」「どのように書いていくのか」を、キーボードのタイピングを記録するシステムを用いて捉えようとしています。子どもの「書きたい」「やってみよう」という思いから出発する授業が、日本においても効果的であるのか、また課題は何であるのか、研究を進めています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

中学校の教員経験を活かし、理論と実践の往還を意識した授業を心がけています。学部生に向けた授業では、将来教壇に立つ際に「主体的・対話的で深い学び」を意識した実践ができるように、ポイントを示した模擬授業と振り返りを積極的に行っています。また、I C T を活用した指導について検討する演習的な授業も行っています。今後は、大学の教室と小中学校の教室をテレビ電話でつなぎ、双方にメリットがある実践的な授業を展開したいとも考えています。

今後の展望

これまでに小中学校の教室とテレビ電話でつなぎ、チーム・ティーチングの形態で作文授業を行ってきました。今後も、教室と研究室をつないだ実践を予定しています。また、作文以外の指導資料の開発も目指し、実践研究を行ってまいります。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

I C T の活用やワークショップ型の授業についての情報提供が可能です。小中学校などの授業研究や校内研修で、お役に立てる機会があればと考えております。



分野 日本近代文学

研究テーマ ・寺山修司研究
・現代演劇・映画論

キーワード 寺山修司研究

所属学会等 日本近代文学会・昭和文学会・東京大学国語国文学会

特記事項 —



URL: -

TEL: 028-649-5260

Mail: t-moriya[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

主たる専門は日本近代文学ですが、作家たちの中には、文学だけに閉じることなく、演劇・ラジオドラマ・テレビドラマ・映画など、あらゆるメディアを横断しながら創作活動を展開した作家たちがいます。その代表的な作家として、安部公房・三島由紀夫・寺山修司が挙げられます。作家たちがそれぞれのメディア特性をどう意識しながら、その可能性を押し広げていったか、というその実験的な創造の足跡を追究し、同時にメディアの有する芸術的かつ教育的役割を考察しています。現在はとりわけ寺山修司の映画・演劇や放送作品の研究をしています。

また文芸作品における「奇妙で風変わりな」幻想的な要素や、不自然な珍妙さが生み出す「笑い」の要素について、その発生の力学を、研究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

実際に映画や演劇を見にいくとともに、その文学テキスト（シナリオや戯曲など）を読み込み、作家がいかに文学を「立体化」していくか、という作品創造の「場」に受容者として立ち会うことを心がけています。特に演劇は複製が効かない、一夜限りの「祝祭」といった性格を持っています。すぐれた舞台に出会うことは、「もうひとつの人生」を生きたと同じくらいの濃密な教育的体験となります。

今後の展望

単著『寺山修司論—バロックの大世界劇場—』（国書刊行会、2017年2月）を刊行し、その後さらなる考察の深化を目指しています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

東日本地区国語問題研究協議会 講話・指導助言講師（文化庁・栃木県教育委員会・宇都宮大学・宇都宮市教育委員会主催、宇都宮大学、2002年）、全国高等学校国語教育研究連合会第40回研究大会栃木大会「ことばと生きる一心を豊かに 思いを確かに—」第8分科会助言講師（文星芸術大学附属高等学校、2007年）、栃木県高等学校教育研究会図書館部会・栃木県高等学校文化連盟図書館部会総会講演「寺山修司と前衛演劇（演劇の革命とは何か）」（栃木県立博物館講堂、2009年）ほか。

**分野** 社会科教育学、歴史教育**研究テーマ** ・社会科教育史、歴史教育史に関する研究
・歴史教育に関する理論的・実践的研究
・社会科教育に関する授業研究・授業開発**キーワード** 社会科教育史、歴史教育史、教育実践史研究、授業研究、
授業開発**所属学会等** 日本社会科教育学会、全国社会科教育学会、中等社会科教
育学会、日本教育学会、教育史学会 等**特記事項** —

URL: -

Mail: kumata[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

専門としているのは、社会科教育史（特に「社会科前史」）研究および歴史教育史研究と呼ばれる研究領域で、社会科教育、なかでも歴史教育を中心とした社会科教育の歴史について研究を進めています。

具体的な研究テーマとしては、戦前期以降の小学校における歴史教育の実態をその実践的側面に着目しつつ明らかにすることです。また、社会科は戦後の教育改革のなかで新設された教科ですが、戦前期において構想・実践されてきた「社会的」な教科についても、小学校の郷土科や国民科をはじめとした特設教科を事例として調査・研究を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

以上のような研究だけではなく、栃木県内の小・中学校での校内研修・研究会における指導助言・講話を行うとともに、現職の小・中学校の先生方と社会科を中心とした授業研究や授業開発を進めています。

また、大学では、主に小・中学校の社会科や高等学校の地理歴史科を中心とした指導法の授業を担当しています。その際、将来、小・中学校や高等学校の教員を目指している学生に向けて、できるだけ具体的な実践を取り上げ、そのなかから社会科教育に関する興味・関心や理解を深めてもらえるように心がけています。

今後の展望

社会科教育史・歴史教育史に関する研究を継続的に行うとともに、授業研究や授業開発をはじめとした社会科教育に関する実践的研究を進めていきたいと思っております。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

栃木県内の小・中学校での校内研修・研究会における指導助言・講話を今後もお引き受けするとともに、授業研究や授業開発をはじめとした現職の先生方との共同研究をさらに進めていきたいと思っております。

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

10 人や国の不平等を
なくそう

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 准教授 ^{くろかわ きょうこ} 黒川 亨子

人文社会系 社会分野 法学研究室

分野 刑事法学、公法学

研究テーマ ・差別的起訴、検察官の訴追裁量
・司法取引
・法教育、主権者教育、人権教育

キーワード 憲法、法、法律、刑事法、刑法、刑事訴訟法、刑事事件、犯罪、捜査、起訴、裁判、法教育、主権者教育、人権教育

所属学会等 日本刑法学会、法と心理学会、刑事司法研究会、刑事訴訟実務と理論研究会、現代刑事法研究会、刑法読書会 など

特記事項 —



URL: <https://researchmap.jp/kurokawakyoko>
Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

【差別的起訴、検察官の訴追裁量、司法取引に関する研究】

わが国の検察官は、広範な訴追裁量権を有しており、その行使の在り方次第では、起訴の公正性が問題となる。2016年刑事訴訟法改正により新設された「協議・合意制度」および「刑事免責制度」の運用にあたって、(1)どのような場合に許されない訴追裁量権の行使となるのか、(2)検察官の不正な訴追裁量の行使に対し、その不当性をどのように立証するのかを解明するために、研究を進めている。

【法教育、主権者教育に関する研究】

法教育や主権者教育においては、わが国が抱える問題点は何か、新制度導入によって、よりよい社会になるのか、という観点から、新制度導入の是非を自ら考え、主権者として判断する能力を生徒に修得させることが必要である。このような法教育や主権者教育を実践するためには、まず、教員自身が主権者としての資質を身につけていることが必須であることから、このような能力を、教員自身に修得させるための教員養成および教員研修の取組みを行っている。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

講義では、世の中の出来事や事件を取り上げ、法的視点からの分析を行う。また、裁判員裁判の傍聴や、検察庁見学などを通じて、学生に、わが国の刑事司法の現状は、果たして憲法の理念や原則通りに運用されているのかを考察させる機会としている。



今後の展望

従来と同様に、研究、教育、社会貢献活動に精力的に取り組むたい。
刑事弁護人や現職教員との連携や、国および地方公共団体への貢献を引き続き行いたい。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- ① 国や地方公共団体の審議会等の各種委員を務める。
- ② 法教育、主権者教育、人権教育に関する講演などを行う。
- ③ 刑事事件や憲法問題などに関して、報道機関への取材協力（事件の争点の解説、コメント等）を行う。



分 野 教育社会学

研究テーマ ・スクールカースト、インフルエンサー型クラス
・教育と社会の接続
・サブカルチャー

キーワード 感情、遊び、面白さ

所属学会等 日本社会学会、日本教育社会学会、日本教師教育学会

特記事項 2021年度 QUORA トップライター



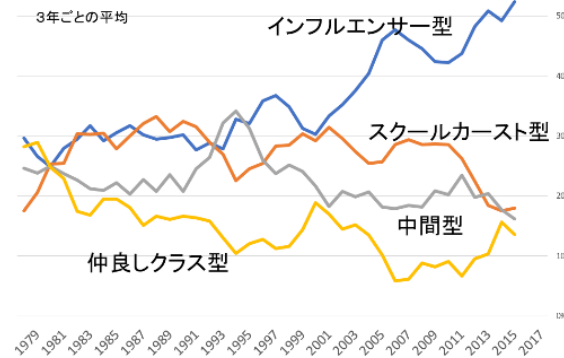
URL: <http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/sociology/>
Mail: kohara70 [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5283

研究概要

中学、高校のクラスがどのような雰囲気になると、子ども達のその後の人生がどうなっていくかなどを調べています。もし権力が集中し、風通しが悪いというスクールカースト的状况で下位におかれてしまうと、学校生活に積極的に参加することが難しくなり、性格も消極的になりがちです。でも誰にも活躍の機会があり、みんなの意見が聞いてもらえるクラスで学んでいる子どもたちは、学校生活が明るくなるだけでなく、その後の人生も幸福になる可能性が高いことがわかりました。ただ最近では、情報化の影響もあり、権力は集中しているけれど、風通しは良いというクラス（右の図のインフルエンサー型）が中学でマジョリティになってきていることもわかりました。

中学のクラスの雰囲気の推移



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

「考え方を学ぶ」ということができる学生は、大学で学んだことがその後の人生でも生かせる可能性が高いことがわかっています。ですので、授業では個々の中身よりも「考え方を学ぶ」ことを重視し、学生さんにも「考え方を伝えられる」先生になれるように指導しています。ゼミでは、これまでの人生と価値観をそのままぶつけられるような卒論を書くことを目指しています。ガンダムだったり、ジャニーズオタだったり、女子マネだったり、ホラー映画だったり。その世界を社会学するために、学生さんと一緒に研究しています。現在のスクールカーストの研究テーマも、卒論の指導から発展してきました。

今後の展望

スクールカーストのない、明るいクラスを作るにはどうしたらいいのか、最近見つかったインフルエンサー型のクラスの良い所と悪いところはどこかを調べていきたいです。あとは学生さんとのみで、面白い研究テーマを持っている学生さんと一緒に研究したいですね。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

QUORAというSNSで、主に教育に関するみんなの質問に答えています。2021年度のトップライターに選ばれました。



分野 歴史学・宗教学

研究テーマ ・西洋史
・宗教史
・比較文化史

キーワード 棲み分け論、生と死

所属学会等 日本西洋史学会、日本宗教学会

特記事項 日本文藝家協会員



URL: -

TEL: 028-649-5278

Mail: shimoda [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

現在の研究テーマは、西洋における異界の研究である。彼岸の論理。キリスト教と輪廻転生など。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

授業では、世界の歴史・文明と宗教などを包括的に講義している。

単著

『ドイツ近世の聖性と権力-民衆・巡礼・宗教運動』青木書店、2001年

Volksreligiosität und Obrigkeit im neuzeitlichen Deutschland- Wallfahrten oder Deutschkatholizismus. Ozorasha. co. Tokyo.

2004

『歴史学「外」論-いかに考え、どう書くか』青木書店、2005年

『ドイツの民衆文化-祭り・巡礼・居酒屋』昭和堂、2009年

『居酒屋の世界史』講談社現代新書、2011年

『ヨーロッパ文明の正体-何が資本主義を駆動させたか』筑摩選書、2013年

『「棲み分け」の世界史-欧米はなぜ覇権を握ったのか』NHKブックス、2014年

『世界文明史-人類の誕生から産業革命まで』昭和堂、2017年

共著

『近代ヨーロッパを読み解く』ミネルヴァ書房、2008年

『ドイツ文化史入門』昭和堂、2011年

『現在知Vol. 2 日本とは何か』NHKブックス別巻、2014年

『ドイツ葬送文化史-近現代における生と死の棲み分け』教育評論社、2023年

今後の展望

西洋の異界について本を書く。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

一般・大学生用の教養書・教科書を多数執筆・出版している。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等を
なくそう

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 准教授 ^{たかやま}高山 ^{けいこ}慶子

人文社会系 社会分野 歴史学研究室

分野 歴史学 日本史 日本近世史

研究テーマ ・近世都市江戸の歴史
・江戸の名主、東京の旧名主
・江戸時代の社会における金融の仕組み

キーワード 近世、近代、江戸、東京、宇都宮、名主、金融

所属学会等 関東近世史研究会、史学会、地方史研究協議会、都市史学会、栃木県歴史文化研究会、日本歴史学会、三田史学会、明治維新史学会、歴史学研究会

特記事項 ー



URL: <https://researchmap.jp/301014>
Mail: k_takayama[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

専門は江戸時代の歴史で、現在の東京の前身である都市江戸の歴史について研究しています。これまでに、江戸城へ魚介類を上納する漁師が住み着いて成立した深川獵師町（現在の東京都江東区清澄・佐賀・永代辺り）という地域の歴史や、江戸の大伝馬町（現在の東京都中央区日本橋本町・日本橋大伝馬町の一部）の名主（なめし）であった馬込家について調べてきました。最近では、この馬込家が名主としての職務のほか、大名の宇都宮藩戸田家の財務を担い、支配町内の豪商からお金を調達して、それを戸田家に融通していたことが明らかになったことから、江戸時代の社会における金融の仕組みに関心を持っています。宇都宮と江戸、栃木と東京、大名と町人、近世と近代の間を往き来しながら、研究を進めています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

歴史は、古文書や遺跡・遺物などの史料があっってはじめて明らかになるものです。そのため、研究では古文書を探して読むという作業を行っています。古文書は、くずし字で書かれた和紙に墨書きの現物史料のこともあれば、史料集として出版された本のときもあります。最近では、インターネット上に公開されたデジタル画像の史料を利用することも増えてきました。探しては読み、読んでは探す、この作業を地道に淡々と、そしてたまたま思いがけない記述に驚いたりしながら、繰り返しています。史料に書かれていることは事実なのか、史料の内容をどのように解釈するのか、史料を通して得られた知見からどのようなことがわかるのかなど、調べたり考えたりすることは尽きませんが、粘り強く分析を進め、まだ誰も知らない歴史を明らかにしたいと思っています。

教育活動では、講義でも演習でも、学んで覚える歴史ではなく、歴史について自ら考え理解を深める授業を目指しています。教えられたことを学び、与えられた課題に取り組むだけではなく、それぞれが歴史について自分なりの関心を持ち、本を読んだり博物館に行ったり現地に足を運んだり、自分から歴史に接し、主体的・能動的に歴史について考えることができるようになってほしいと思っています。

今後の展望

研究、教育、社会貢献活動を、それぞれ着実に進めて参りたいと思います。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

宇都宮市文化財保護審議委員会委員、栃木県文化財保護審議会委員、とちぎ歴史資料ネットワーク（とちぎ史料ネット）代表

2 飢餓をゼロに

4 質の高い教育をみんなに

12 つくる責任 つかう責任

15 陸の豊かさを守ろう



分野 農業地理学 農村地理学

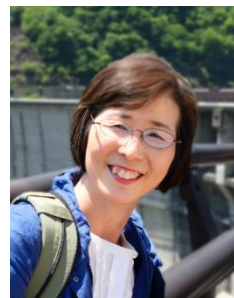
研究テーマ

- ・畜産地域のレジリエンス向上の条件
- ・児童・生徒の地域理解をうながす地域学習のあり方
- ・中山間地域活性化を支援する教育プログラム

キーワード 畜産, レジリエンス, 知識移転, 栃木県, 里山, 地理情報

所属学会等 日本地理学会、人文地理学会、経済地理学会、地理空間学会など

特記事項 —



URL: -

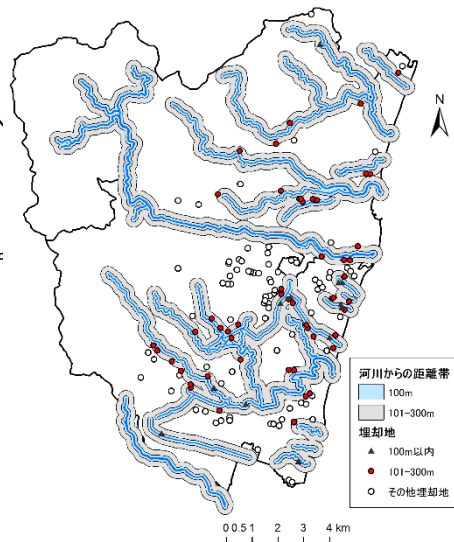
Mail: kwmatu[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5290

研究概要

日本国内の酪農経営、肉用牛経営、畜産関係諸機関に対するインタビューやアンケート調査にもとづく実証研究を行ってきました。畜産地域のレジリエンスとは、家畜伝染病の感染拡大、原発事故による放射能汚染、コロナ禍での外食需要の落ち込みといった阻害要因に対し、畜産経営が地域的にいかなる回復力を見せるかということです。宮崎県の口蹄疫埋却地の空間分析や、放射能汚染からの牧草地再生の実態を通して、今後の被災リスクに対し経営上や環境面の損失を最小限にする方策を考えてきました。現在は、畜産地域にみられる戦略的連携にもとづく知識の創造や移転が、レジリエンスにどう結びつくかを研究しています。

また、小中学校の社会科、高等学校の地理歴史科の授業に導入可能なフィールドワークの体系化と教員研修での普及をめざしています。



河川からの距離別にみた口蹄疫埋却地

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

①地理教育・防災教育の実践に必要な地理情報活用能力の育成、②現地を歩き、調査対象に深く接する実地体験に力を入れています。担当授業のすべてにおいて、国土地理院のWeb地図を活用し、地形図の読図、新旧の空中写真・衛星画像の比較を行う作業を組み込んでいます。全学部対象の「里山のサステナビリティを考える」(右の写真)では、県東部の茂木町の棚田と周囲の山林を踏査し、折々の農作業を体験することで、人間活動の変化による里山環境の推移を理解させ、里山の荒廃を防ぐためのアイデアを住民の方々に提案する教育活動を継続しています。



今後の展望

環境や動物福祉への配慮と高品質の畜産物生産を両立させる、持続的な地域畜産の成立条件を、畜産経営者とともに探って行けたらと思います。また、教員養成課程の学生や現職教員の方々に、地理情報活用技能を修得してもらうための機会を積極的に設けたいと考えます。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

校内研修の指導助言、教員研修講師、放送大学面接授業講師、一般向けの「栃木の地形・歴史散歩」の講演、栃木県内高等学校での「総合的な探究の時間」の講演や授業、畜産関係団体が主催するシンポジウムの基調講演やパネラーなどの社会活動を行っています。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 教授

あまぬま みのる
天沼 実

人文社会系 英語分野

分野 英語学

研究テーマ

- ・現代英語の語法・文法
- ・発達心理学の観点を加味した一般言語理論の枠組みによる英語統語分析
- ・文断片統合の観点からの構文記述・分析

キーワード 統語論, 一般言語理論, 非瞬時的・動的文法理論

所属学会等 日本英語学会、日本言語学会、英語語法文法学会、日本英文学会、The Linguistic Society of America

特記事項 地域創生推進機構宇大アカデミーディレクター
アドミッションセンター副センター長・入試広報WG座長



URL: -

TEL: 028-649-5268

Mail: amanuma[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

私たち人間は基本的に誰でも、ある言語を母語として習得し使うことができるようになっていきます。いったい人間はどのような仕組み（文法）を持った言語ならば母語として自然のうちに習得し使用することができるようになっていくのか、という観点から、英語を主対象としてその文法的特徴を詳細に把握し、それらがどのように習得されるのか、人間の言語の文法は一般的にどのような姿をしているのかなどの問いへの答えを経験科学の方法により追究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学部においては、中学校・高等学校教科「英語」の英語学領域の教科専門科目やことばから見た人間の探求をテーマとした教養科目などを担当しています。普段の授業においては、ことば・英語の形や意味、使われ方などに関するふとした疑問を大切に、それを切り口に自ら知識を深め、さらにその先の探求に踏み込んでゆくおもしろさを感じてもらいたいと考えています。

今後の展望

英語のさまざまな構文について、その発生源を文断片に求める考え方を当てはめることによって見えてくる言語の一般性に興味があります。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

UUカレッジを通して地域の市民の皆さんのリカレント学習を支援しています。より高度なりカレント学習の社会的要請にお応えするためにも、UUカレッジの一層の発展に取り組んでいます。

5 ジェンダー平等を
実現しよう

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 助教

いがらし い が ら し な お
五十嵐 奈央

人文社会系 英語分野

分野 20世紀イギリス・アイルランド文学

研究テーマ ・1930年代イギリス詩
・第一・二次世界大戦の詩
・詩の形式・ジャンルの研究（戦争詩、エレジー）

キーワード 詩、文学、イギリス、アイルランド

所属学会等 日本英文学会、IASIL

特記事項 —



URL: -

Mail: nao.igarashi [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

20世紀前半のイギリス・アイルランド詩を研究しています。

アイルランド生まれでイギリスで活動した詩人ルイ・マクニースの作品を専門としているほか、詩と時代背景および文学的・文化的伝統との関わりに関心があります。

マクニースの第二次世界大戦中の作品について研究する中で、第一次世界大戦の歴史や作品にも関心を持つようになりました。現在は、第一次世界大戦に従軍したイギリス人詩人の作品にも研究の対象を広げています。

社会における芸術（詩）の役割をテーマに基づき詩作品を研究しているため、20世紀前半の歴史や、イギリス文学における詩の歴史についても知識を深めたいと考えています。

教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

研究では、詩の構造や単語・表現の選択・使用について細かく分析することにしていきます。

授業でも、作中の注目すべき特徴について詳しく解説することで作品の面白さを伝えています。色々な作品を読む中で、学生それぞれが気になるポイントを見つけ、多様な解釈の可能性を知ることができるよう心がけています。

今後の展望

英語の言語的特徴に関する、より専門的な知見を深め、詩の分析に取り入れたいと考えています。

また、研究対象とする作品が書かれた時代の歴史（イギリス・アイルランドのみならず、ヨーロッパや世界史全体）についても、最新の研究に目を向け、正しく理解して研究に反映したいと考えています。

社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

英語の詩を読む楽しさを知ると、作品そのものへの関心だけでなく、言語や異文化への興味を持ってもらいやすくなります。より多くの方々に詩や詩の読み方を紹介する機会を持ちたいと考えています。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

分野 英語学・理論言語学

研究テーマ ・統辞論
・意味論
・英文法研究の英語教育への応用

キーワード 英文法研究, 言語研究, 英語教育への応用

所属学会等 日本英語学会、日本英文学会、近代英語協会、日本英語文化学会、大塚英語教育研究会、筑波英語学会

特記事項 —



URL: -
Mail: [hiroyuki.iwasaki\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:hiroyuki.iwasaki[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

現代英語が持つ性質や英語の歴史変遷に関する謎を理論的に解明する研究を行っています。また、英語と日本語などを比較したり、英文法研究の知見を英語教育に応用したりすることにも挑戦しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

言語は私たちにとって大変身近な存在ですが、私の母語である日本語は無意識のうちに身に付いてしまいますし、テストで良い成績を上げるために英語を勉強するという状況であったりすると、言語そのものに対して興味関心を寄せるというのは意外に難しいものです。知識を教え込むというよりも問いを示して自分の頭で思考することを通じて、言語について考えることの面白さを学生に体感してもらうようにしています。そして、言語を実際に研究してみたいと思った学生には、さらに専門的な知識に触れさせるようにしながら、私自身もその研究に携わっているような気持ちで卒業論文・修士論文の指導を行っています。

今後の展望

理論に即して言語現象を分析するだけでなく、その言語理論の方にも精緻化等の貢献ができるような研究を行っていきたいと思っています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

これまで取り組んできた社会活動：高等学校での出前授業、高大連携事業、英語弁論大会審査員、教職員セミナー

**分野** 英語教育**研究テーマ** ・英語教師の信念
・教員養成課程履修生の言語教師認知
・外国語(英語)教授法・指導法**キーワード** 英語教育, 教員養成, 教師教育, 外国語教授法**所属学会等** 全国英語教育学会、中部地区英語教育学会 等**特記事項** —

URL: -

Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

英語教師がどのような知識をもち、何を考え、何を信じていて、それらが授業実践上の意思決定にどのように影響しているのかを探求しています。さらに、英語教師を志す大学生および現職の英語教師が何を学び、経験し、どのような専門的成長の過程をたどっているのかを研究しています。

また、内容言語統合型学習 (CLIL: Content and Language Integrated Learning) などの外国語教授法・指導法の研究もしています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

英語教師の認知プロセスを探求すべく、主に質的研究法を用いて研究を行なっています。具体的には、授業への参与観察や記述式の質問紙、インタビューなどを実施し、英語教師の視点から、その場で起こっている現象を理解し、新たな知見を見出そうとしています。さらに、実施する研究自体が、研究に参加していただいた英語教師の方々の成長および専門性の向上の一助となるように心掛けています。

また、外国語教授法・指導法の研究においては、テクニックだけではなく、その教授法がもつ言語観と学習観やそのシラバスについてより焦点を当てて研究を行っています。

今後の展望

授業の改善や教室内の理解を深めることを目的とした実践研究 (practitioner research) にも興味があります。ぜひ、英語を教えている小・中・高の先生方と一緒に実践研究を行っていきたいです。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

英語を教えること・英語の授業について考えていることを共有できれば幸いです。

**分野** 数学教育学

研究テーマ ・算数・数学教育における数学的モデリングの学習指導の方策に関する研究
 ・算数・数学教育における統計的推論を促す学習指導の方策に関する研究

キーワード 授業開発, 数学的モデリング (現実の世界と算数・数学とのつながり), 統計教育

所属学会等 日本数学教育学会、日本科学教育学会、数学教育学会 等

特記事項 現場の先生方と協働して授業開発・実践を行っています。



URL: <http://researchmap.jp/kenshin/>

TEL: 028-649-5298

Mail: t-kawakami[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

【算数・数学教育における数学的モデリングの学習指導の方策に関する研究】

現実の世界と数学の世界との行き来に焦点をあてた数学的モデリング (以下、モデリング) の過程や方法を重視した学習指導の実現可能性について実証的に研究しています。小学生や中学生がモデリングを自力で遂行することを支援するための教材づくりや授業づくりの方策について理論的に、実践的に開発しています。また、日々教えている算数・数学の学習内容の中から、現実の世界と数学の世界の行き来に関わる活動を見出し、モデリングを重視した単元・授業を開発・実践することを通じて、日常の算数・数学の授業の中で、モデリングに焦点をあてた活動を実践できようにするための方策についても実証的に研究しています。その際、ICT (グラフ電卓等) も積極的に取り入れています。

【算数・数学教育における統計的推論を促す学習指導の方策に関する研究】

統計カリキュラムの新たな系統性として統計的推論 (複数の統計的概念を関連づけて統計的情報や手続きについて説明し、判断する行為) に着目し、その基盤となる「分布の見方」に関して、小学生や中学生がどのように発揮させるかについて授業実践や実態調査を通じて研究しています。さらに、小・中学生の統計的推論を促進するための教材や授業の方策についても現場の先生方と協働しながら研究しています。統計の授業の中で、ICT (タブレットや電子黒板) も取り入れながら、子どもたちが持っている素朴な統計の素養を引き出し、伸ばすことも行っています。

**教育・研究活動の紹介** (特徴と強み等)

算数・数学教育において、現実の世界とのつながりや統計教育は、今後一層重要視され、具体的な授業改善が求められてくるでしょう。算数・数学の授業の中で、現実の世界とのつながりを重視した授業や統計の授業をどのように実践していけばよいのかを、現場の先生と協働して授業を開発・実践しながら探究しています。そこで導かれる知見が、学校現場の授業改善の一助になればと考えています。

今後の展望

小・中学校における数学的モデリングや統計に興味・関心ある先生方と一緒に、新たな教材や授業の開発とその実践を行い、これらの分野の実践者コミュニティを広げていきたいと考えています。また、小・中学校の先生方を対象とした、数学的モデリングや統計に関する研修も実施していきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

学校現場の公開研究会での指導助言や算数・数学教育に関する講演を行っています。

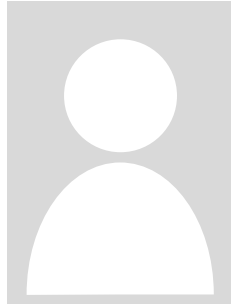
分 野 微分幾何学

- 研究テーマ**
- ・ 対称空間の対蹠集合に関する研究
 - ・ 例外型対称空間の幾何学的実現に関する研究
 - ・ 四元数ケーラー多様体に関する研究

キーワード 対称空間, 対蹠集合, 例外型単純コンパクトリー群, 四元数ケーラー多様体, 群作用

所属学会等 日本数学会

特記事項



URL: <https://sites.google.com/view/y-sasaki/%E8%87%AA%E5%B7%B1%E7%B4%B9%E4%BB%8B?authuser=0>
Mail: [y_sasaki\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:y_sasaki[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

私の専門は数学の一分野である微分幾何学です。微分幾何学は曲がった空間を扱う幾何学で、平らな空間を扱う幾何学であるユークリッド幾何学と比べると複雑な点も多く大変ですが、曲がった空間特有の興味深い数学的な現象が数多く存在しています。私はその中でも、対称性の高い空間である「対称空間」を研究テーマのメインに据えて研究を進めています。平面や球面など高校までの数学で出会う空間の多くは対称空間であるため、対称空間は最も基本的な空間の一つであるといっても差し支えないかもしれません。実際、対称空間においては様々な数学的な量を具体的に計算することができます。対称空間を調べる方法は微分幾何学的な手法だけでなく、対称性を扱う理論である群論を用いることもできるため、様々な方面からのアプローチで研究を進めています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育活動に関して、学生の皆さんと意思疎通をすることを大事にしています。数学は、積み重ねの学問であり、先の内容を習得するためには今向き合っているものを確実に身に着ける必要があります。そのためには、授業内において、学生の皆さんがしっかりとその内容を理解して先に進む必要があると考えています。こうしたことから、しっかりと学生の皆さんと意思疎通を行い、双方向であるような授業を行いたいと考えています。

今後の展望

対称空間は20世紀の中ごろには分類も完成してしまい、多くの数学的現象も解明されています。しかしながら、まだよく研究の進んでいない現象も存在し、さらには最新の数学との関係も見いだされています。対称空間上のそうした未知の数学的現象の解明を目指し研究を進めていきます。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

栃木県内の中学校・高校において、数学の出張授業や講演会を行っています。また、現職教員向けの数学の勉強会・講演会なども行う予定です。



分野 代数幾何学

研究テーマ ・ファノ多様体の研究
・代数多様体上の有理曲線族の研究
・代数多様体の接束の正值性の研究

キーワード ファノ多様体, 有理曲線族, 接束の正值性, チャーン指標,
ピカルル数

所属学会等 日本数学会

特記事項 —



URL: -

TEL: 028-649-5307

Mail: taku.suzuki[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

専門は代数幾何学です。これは、「代数多様体」と呼ばれる「多項式の方程式で表される図形」を研究対象とする数学の一分野です。例えば、放物線は「 $y=x^2$ 」のような式で表され、球面は「 $x^2+y^2+z^2=1$ 」のような式で表されますので、これらは代数多様体の例です。その中でも、私が研究対象としているのは、高次元の代数多様体です。放物線は「線」なので1次元の図形、球面は「面」なので2次元の図形ですが、これらよりもっと大きな次元の図形の性質を研究しています。4次元や5次元というと図形としてのイメージがしづらいたと思いますが、次元を大きくすることで見えてくる面白い性質がたくさんあります。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

数学の研究とは「数学の問題を解決する」ことですが、受験数学のような答えが用意されている問題を解いているわけではなく、誰も答えを知らない未解決の問題に取り組んでいます。論理的であればどんな手段を使ってもよく、既存の理論をうまくアレンジしたり、時には専門外の理論を使ったりもします。そのため、日々、最新の論文を読んだり、研究集会に参加したりして、新しい理論を勉強し、応用できないかどうかを考えています。また、他の研究者と共同で同じ問題に取り組み、アイデアを出し合って研究を進めることもあります。

一見複雑そうに見える問題でも、見方を変えたり、既存の方法をうまく工夫すると、解決できることがあります。数学の醍醐味は、そのような解決方法を「自身で発見すること」にあると考えています。大学における数学教育ではそれを重視し、学生に主体的に考えさせることを意識しています。

今後の展望

代数幾何学におけるいくつかの未解決問題を解決することを目的に研究に取り組み、更なる論文発表・学会発表を目指しています

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

栃木県内の中学校・高等学校において、数学の出張授業を毎年数件行っています。また、現職教員向けの数学の講義も行っています。

**分野** 数学教育学

研究テーマ ・ 図形の証明問題での未完成的証明の生成過程について
 ・ 中堅数学教師の成長について
 ・ 算数・数学授業における振り返り活動の充実について

キーワード 算数・数学科の学習指導

所属学会等 日本数学教育学会, 日本科学教育学会, 日本教科教育学会

特記事項 現職の小中学校の先生方と協働して算数・数学の授業づくりを行っています。



URL: -

TEL:028-649-5308

Mail: makino[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

算数・数学の問題解決において、児童・生徒は誤答を生成する。児童・生徒の「誤答」は私たちにいろいろなことを教えてくれます。児童・生徒が誤答を生成したプロセスを見ると、彼らなりの「論理」があることに気づきます。誤答の背景にある児童・生徒の「論理」を見ると、全くわかっていないわけではなく、「あと一歩」のところまで完成に至っていないことがよくわかります。「あと一歩」のところまで来ている児童・生徒の努力を結実させ、算数・数学の学習に自信を持って取り組んでもらいたいと考えています。そこで、中学生にとって（最も）大きな壁となっている「証明」の学習状況をターゲットにして、中学生が証明問題の解決場面で生成する「未完成的証明(incomplete proof)」に着目して、その生成過程の認知の様相を解明し、その知見に基づいて生徒が未完成的証明を改善する方策について研究しています。

上記以外にも、宇都宮大学に派遣される現職の先生方との研修・研究を通して、中堅教師の学びの成長に関する研究や、また公立小学校の先生方と協働して、児童の数学的思考力の育成する「振り返り活動」を促す手立てについて研究を進めています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

大学では、「算数科指導法」, 「中等数学科指導法A」等の指導法に関する授業を主に担当しています。授業では、算数・数学の授業を実施する上で基礎的・基本的な知識はもとより、「数学的思考力・表現力」, 「数学的活動」, 算数・数学科における「主体的・対話的で深い学び」等について経験的に学ぶ機会を設けています。そして、学生の数学観, 教育観, 子ども観の変容を促します。

今後の展望

初等中等教育段階を視野に、いつ、どこで、どのような活動を取り入れると児童・生徒の説明及び証明活動が効果的に洗練されていくのかを、国内外の研究者及び小中学校現職教員と協働的に研究を展開していきたいです。また、小中学校の先生方との協働的な研究活動をさらに進め、国内外に発信していきたいです。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

これまで、栃木県内に留まらず、全国大会, 関東甲信静地区大会での指導講師をはじめ、県内外の小中学校での授業研究会で講師として指導助言者を行っています。一方で、毎年、宇都宮大学に派遣される内地留学生を受け入れて、研修と研究を行っています。

分野 生物教育 発生生物学

研究テーマ ・小・中・高等学校生物実験の改良と開発
 ・両生類胃部域の変態期における分化機構の解明
 ・Cathepsin Eの生理的機能の解析

キーワード 生物教育, 変態, 胃の進化, pepsin, cathepsin E

所属学会等 日本生物教育学会, 日本動物学会, 日本生化学会, 日本発生生物学会

特記事項 —



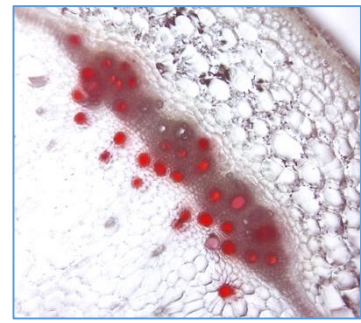
URL: -
 Mail: inokuchi[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5318

研究概要

生物教育分野 小学校から高等学校の教科書に記載されている生物分野の実験や観察は実際に行ってみると難しいものが多数ありそれらを学校現場で行いやすくする改良を行っています(右図)。また、教科書の内容理解に有効な実験が記載されていない単元では、単元に即した新たな実験や観察法の開発を行っています。

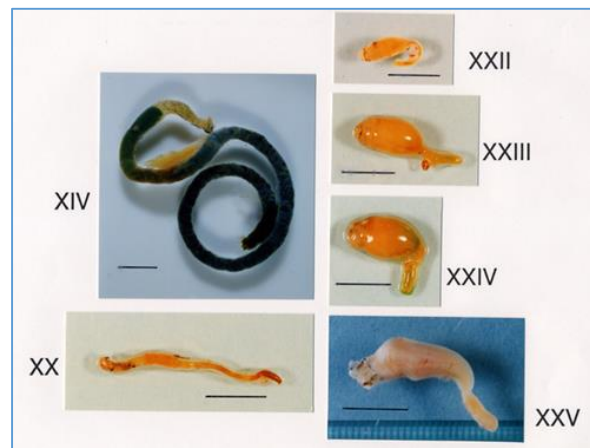
基礎生物分野 オタマジャクシからカエルになる期間のことを変態と呼んでいますが、この時期は消化管にも大きな変化が起きています。胃部域を中心に変態期にどのような変化が起こるのかを研究しています(右下図)。また、オタマジャクシの胃には消化酵素であるペプシンは発現していませんが、カテプシンEという酵素を発現していることを発見しました。現在はこのカテプシンEの生理的機能についても研究しています。



ホウセンカ道管観察法の改良

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

普段の授業については学生が「分かる」をテーマに行っています。演習や実験では、実験の意味と内容理解は当然として論理的思考の育成を心掛けています。実験を行なったの研究は大変さが前面に出やすいですが、実験は楽しさや面白さも持ち合わせていますので、実験の楽しさ面白さが伝わるように研究指導を行っています。また、現在はイモリを中心に研究を行なっているため年間を通じてイモリを飼育し適宜幼生を得ています。



ウシガエル胃部域の変態期における変化

今後の展望

生物教育分野での今までの研究により改良・開発した実験をもっと学校現場に紹介して行きたいと考えています。基礎生物分野での研究によりカエル(無尾類)で分かったことが、同じ両生類であるイモリ(有尾類)と何が同じで何が違うのかを明らかにして行きたいと考えています。また、カテプシンEの生理的機能や胃の進化を考えるために魚類のカテプシンEについて研究を広げて行く予定です。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

高校生向けの実験講座や出張講義を毎年多数行っています。研究の成果を学校現場に還元し、さらに生物実験の改良と開発を行いたいため、学校現場の先生がたと意見交換の場を持ちたいと思っています。



SDGs事例

共同教育学部 准教授

たきもと いえやす
瀧本 家康

自然科学系 理科分野

分野 地学教育, 物理教育, 気候学, 自然地理学**研究テーマ** ・ICTを活用した地学・物理教育研究
・局地気候, 都市気候**キーワード** 地学教育, 物理教育, 気候学, 自然地理学**所属学会等** 日本地理学会, 日本気象学会, 日本地学教育学会, 日本物理教育学会, 東北地理学会, 日本ヒートアイランド学会**特記事項** 出前授業等お引き受けします

URL:

Mail: ieyasu[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5316

研究概要

【地学教育・物理教育】

BYOD (Bring Your Own Device), 各自のスマートフォンやPC端末を活用した教材の開発を中心に行っています。特に地学分野では, WEB上にある様々な地球に関するデータを利用した教材や各自の端末を利用して地球に関する諸量を測定する実験の開発を行っています。

【気候学】

宇都宮の気候, 特に都市気候や暑熱環境の調査を独自の気象観測装置を用いて行っています。2021年度は栃木県気候変動対策課と連携し, 室内暑熱環境, 特にWBGT (暑さ指数) の分析を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

GIGAスクール構想で生徒一人ひとりがタブレット等の端末を活用できるようになったことを活かせるようなICTを活用した地学の教材を開発しています。地学に関する現象は時間的空間的スケールが大きいため, 実際の現象を再現したり, 実験したりすることはたいへん困難です。しかし, ICT機器を用いることでそれらをカバーすることができます。たとえば目で見ることができない地球規模の大気の大きな循環のようすも現在ではWeb上で簡単に閲覧することができ, 大きな大気の循環と日本の気象との関係も簡単に理解できるようになってきました。

研究室では, 地球や宇宙についてICTを活用し, 実感を伴った理解につながる教材の開発を行っています。また, 宇都宮の都市特有の気候であるヒートアイランド現象に着目し, 独自の気象観測装置を市内各所に設置して観測を行い, 実態の解明を行っています。この研究は他大学の気象学研究室との共同研究でもあり, 近年話題になっている暑さ指数 (WBGT) についての調査も行っています。2021年度は栃木県との共同研究として, 室内の暑熱環境についての実態調査も行うことになっています。

今後の展望

GIGAスクール構想が進展する中で, 中学校の地学分野で実施が可能なICTを活用した教材の開発を中心に行っていきたいと考えています。また, 宇都宮市の都市気候の実態把握も継続的に行っていきます。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

地球や宇宙のこと, 気候や気象のこと, 身近な地形のことなど地学教育等に関連した分野で話題の提供が可能です。出前授業や講演会も可能な範囲でお引き受けいたします。





自然科学系 理科分野

分野 理科教育学・科学教育**研究テーマ** ・理科授業／科学の学びのデザイン研究
・児童生徒の科学概念形成
・ICTを活用した理科授業**キーワード** 理科授業, 幼児の科学の学び, デザイン研究, 科学概念,
ICT活用, STEAM教育, SDGs, ゲーム教材, 環境教育**所属学会等** 日本理科教育学会, 日本科学教育学会, 日本教育工学会**特記事項** —

URL: -

Mail: deguchia[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

理科授業のデザイン研究を専門にしています。授業のデザイン研究とは、学び手の理解や思考を深めたりするのに良いとされている様々な教材や教具、指導方法を取り入れて、授業を作っていくことです。私の研究では、小中学校の理科授業、幼児期の子どもたちの科学遊び、あるいは動物園等の社会施設での教育活動といった様々な場面における理科・科学の学びのデザイン研究を行っています。そうしたデザインを行う中で、ICTやゲーム教材を取り入れたり、より良いデザインを行うための科学概念調査を行ったりしています。このような研究を通して、よりよく現代の科学技術社会に参加したり、将来の科学技術社会を創り出したりする人材の育成を目指しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

上記の研究にあたっては、学校現場の先生方との共同研究を数多く行っています。また、栃木県内の小中学校での授業研究会や校内研修での指導助言、教員研修における講話講師なども担当させていただいています。このような学校現場の先生方との関わりは私自身にとっても学びの場であり、先生方と共に良い理科授業を作っていく楽しさや喜びを感じる機会になっています。

また大学では、理科の指導法をはじめとした教員養成に関する授業、理科教育学のゼミを担当しています。

今後の展望

現在はICTを取り入れた理科授業、STEAM教育やSDGsを指向した理科授業に関するデザイン研究に力を入れています。これらは現代の比較的新しい教育課題でもあります。これからも時代の変化とともに新しい教育課題が出てくることが考えられます。そうした変化に対応した理科の授業デザインを追究していきたいと考えています。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

今後も、小中学校等における授業研究や校内研修での指導助言、教員研修における講師などで引き続きお役に立てる機会があればと考えています。また、研究の成果を学校現場に還元できるよう、学校教員の方々と交流していきたいと思っています。



分野 ソフトマターの物理/生物物理/物理教育

研究テーマ ・熱・統計力学的な細胞分裂モデルの構築
・ソフトマターを用いた分野横断型教材の開発
・ICTを活用した物理教育研究

キーワード 物性実験, 熱, 統計力学, コロイド, 両親媒性分子,
ICT, オンライン理科実験

所属学会等 日本物理学会・日本化学会・日本生物物理学会・日本物理教育学会

特記事項 開発した教材の実践や自然科学の概念調査などご協力をお願いいたします。



URL: https://researcher.utsunomiya-u.ac.jp/html/100003836_ja.html

Mail: [nastumey\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:nastumey[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

金属や半導体のような「固体」でないものを総称して「ソフトマター」と呼びます。例えば、私たちの体は、歯や骨などの一部を除き、タンパク質や血液、細胞などのソフトマターでできています。私の研究では、組成のよくわかった簡単な物質から細胞モデルをつくって機能させるボトムアップ型のアプローチで、多様な生体の構造や機能に共通する法則を探っています。特に細胞分裂を模した実験系で、膜の弾性エネルギーの変化や内包物の浸透圧の効果を調べています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

大学では、学校教育教員養成課程の「基礎の物理学」や「基礎物理学実験」、全学向けの教養科目「物理学入門」などを担当しています。いずれの科目でも、自然の事物・現象の大きさやエネルギーのスケールを捉えること、それらにかかわる様々な単位を基本単位系に変換し理解することを、繰り返し指導しています。これらを通して、自然科学の知識を学ぶだけでなく、卒業後も新しい事柄を学ぶ際の基盤にしてほしいと考えています。

今後の展望

ソフトマターの物理・生物物理は、物理・化学・生物の境界に位置する領域です。この特性を活かして、中学生や高校生が3分野を横断的に学習できる教材の開発を行っています。特に、高校物理「弾性エネルギー」と化学「浸透圧」「コロイド」、生物「細胞」「生命起源」などを関連付けることに力を入れています。ICTの普及にとともに、タブレット型コンピューターを使って、観察や解析、結果の共有などが簡単にできる実験系を組み立てています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

中学校や高等学校において中大・高大連携企画の講師や探究的学習の指導を行っています。テーマの例:「生命の起源と人工細胞」「音の三要素と音階」など。



分野 物理教育、化学教育

研究テーマ ・ICTを活用した物理・化学教育研究
・アクティブ・ラーニング型授業（反転授業、ILDsなど）
のキャリア教育への接続

キーワード 物理教育、化学教育、反転授業、ILDs、キャリア教育

所属学会等 日本物理教育学会、日本教育工学会、日本科学教育学会、
物理教育研究会

特記事項 —



URL: -

TEL: 028-649-5313

Mail: minami[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

相互作用型演示実験講義（ILDs）を中学・高校に導入できるよう、
教具の開発や授業案の検討を行っています。生徒が予想・議論し、演
示実験で確認して認識を深めるため、教員が如何に関わるべきかを検
討しています。

学生が主体的に授業に取り組むことができるよう、講義・演習だけ
でなく、学生実験にも反転授業を取り入れています。授業で学んだこ
とを授業内に留めるのではなく、自分の人生に活用できるよう、ルー
ブリック評価のあり方等も含めて、検討を進めています。



教育・研究活動の紹介（特徴と強み等）

ICT教育については、理科教育の3教員（TMN）でチームを組んで、3・4年生を連携して指導しています。3
年次は大部屋で仲間と切磋琢磨し、4年次の卒業研究も仲間と共に多角的な視点で指導を受けられるよう、学問
だけでなく学生生活の質的な面からもバックアップできる体制を取っています。

キャリア教育についての研究は端緒についたばかりですが、教育心理やキャリアセンターの先生等、各方面か
らの支援を受けられる体制を構築し、実践・評価を試みています。

今後の展望

ICTを活用した教育については、中学・高校の先生と連携しながら、実際の授業の中で活用できるよう進めて
いきたいです。反転授業等のアクティブ・ラーニング型授業につきましても、現場の先生の声の声を伺いながら、中
高で活用できる形を探っていければと考えております。

社会貢献等（社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

中高生向けの実験講座や、教員が楽しんで実験に取り組める教員研修を実施しております。出前授業や講演会
も可能な範囲でお引き受けいたします。



SDGs事例

共同教育学部 教授

かわしま よしあき
川島 芳昭

自然科学系 技術分野

分野 自然科学系技術**研究テーマ** ・ICTを活用した授業改善
・プログラミング教育
・情報モラル教育**キーワード** ICT, 情報教育, プログラミング, 情報モラル**所属学会等** 日本産業技術教育学会, 日本教育工学会, 日本科学教育学会,
教育システム情報学会**特記事項** -

URL: -

Mail: 社会共創促進センターにご連絡ください。

研究概要

GIGAスクール構想による一人一台端末の導入, プログラミング教育の実施など, 学校におけるICT環境の変化は激しいものとなっています。そして, その変化に対応した授業設計や機器操作を含めたリテラシー能力が教員に求められているのが現状です。このように変化し続ける学校現場において, 教員が抱える多くの問題を改善していくことは, 教育の質の向上を図るためにも重要なことであると考えています。そのため, 普遍的な教育理論と, 変化する教育環境を整理し, 子ども達の情報活用能力や課題解決能力を高めるための授業作りや教材開発に関する研究を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

当研究室では, 地域教育関連機関や学校現場との関係性が密である強みを生かし, 各種教育データの収集, 実践的な検証データの収集などを行い, 定量的・定性的な分析を基に研究を展開しています。また, 学校教育に必要な教育用教材の開発も長年にわたり行っており, そのためのノウハウなどの蓄積も豊富にあります。

今後の展望

小学校教育や技術科教育のためのプログラミング教材の開発やこれまで蓄積してきた教育データを生かした教育用教材の開発に取り組み, 学校教育に寄与できる研究を進めていきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

地域教育委員会が主催する「問題行動等未然防止プログラム事業」や「子育て講座」, 「市民カレッジ」などの講師を勤め, 栃木県内の情報モラル教育の推進を行っています。また, 国が主催する「インターネットフォーラム」や支援する「安心ネットづくり促進協議会」などのコーディネータや普及啓発部長も兼任しています。一方, ICTを活用した教育, プログラミング教育の推進のために, 県内の教育関連機関と協力し, 教員向け研修会講師や, 授業実践などを行っています。





分野 技術

研究テーマ ・技術教育
・マイクロ波・ミリ波
・小学校ものづくり教育

キーワード 技術教育, マイクロ波, 電子工学

所属学会等 日本産業技術教育学会・電子情報通信学会

特記事項 小中学校のものづくり教育



URL: -

TEL:028-649-5329

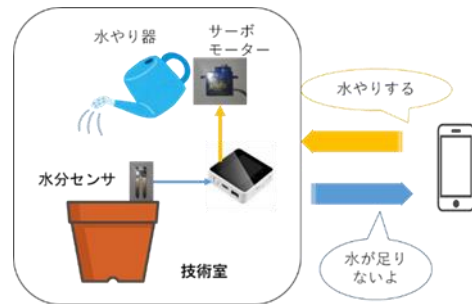
Mail: marim[at]~cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

- ・ウィスパリングギャラリモード誘電体共振器の特性解析
- ・中学校技術科の教材開発（電気・情報）
- ・小学校プログラミングの授業提案

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育は日々進化していますが、特に中学校技術科は、進化するスピードが速いです。近年では情報技術の発達が目覚ましく、技術科のものづくりも情報を絡めることが必須です。こどもたちが自宅で他のものに工夫してみたいと思わせる教材づくりを行っています。



今後の展望

私が専門とする電気ですが、学生にアンケートを取ると、中学校技術科の中でも不人気で、高校までの学習の中でも不得意と思う学生が多いことが分かっています。情報技術と電気技術を融合したものづくりの楽しさを伝え、技術を使う以上に、作ることができる人材を育成したいです。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

学生と共に養護園・グループホームにおけるものづくり教室を行っています。
 学生と共に小学校でプログラミングの授業を行っています。
 多くの子供たちにプログラミング教室、電子工作の教室を通じて、ものづくりの楽しさを伝えたいと思っています。

**分野** 音楽教育、音楽理論、知的財産法**研究テーマ**

- ・鍵盤ハーモニカの演奏および指導法に関する研究
- ・音楽理論の指導に関する研究
- ・「音楽に関する知的財産権」に関する研究
- ・音楽アウトリーチに関する研究

キーワード 器楽, 鍵盤ハーモニカ, 知的財産法, 著作権, 音楽アウトリーチ**所属学会等** 日本音楽学会、日本音楽教育学会、日本知財学会、知的財産管理技能士会**特記事項** 鍵盤ハーモニカのワークショップや音楽鑑賞教室、知的財産法（特に著作権）の講座を行っています。

URL: -

TEL: 028-649-5355

Mail: arai[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

小学校低学年の音楽の授業でよく用いられている、鍵盤ハーモニカは、日本では60年ほどの歴史しかなく、まだ発展を続けている楽器です。この楽器について、両手弾きの演奏活動を通じて、研究しています。また、小学校でどのように指導していくかについて研究しています。

「音楽理論の指導」については、小・中学校と9年間音楽の授業を受けても楽譜の読めない児童・生徒が多いという現状を踏まえ、それをどうしたら改善することができるかということについて特に考えています。

「音楽によるアウトリーチ」（地域貢献）は授業の中で学生が学校や施設などに出向いて授業や交流（演奏など）を行い、その効果について考えています。

「音楽に関する知的財産権」は平成24年度から中学校で教えることになりました。現在は、この内容の検討や指導の方法などについて試行錯誤しています。

教育・研究活動の紹介（特徴と強み等）

鍵盤ハーモニカでは、写真のように楽器を肩から斜め掛けにし、両手で演奏する活動をしています。したがって、左手は通常とは逆手となります。鍵盤ハーモニカという、小学生も使う楽器を使って音楽表現を追究することで、子どもに演奏や音楽に興味を持たせることができたらと考えています。

著作権に関しては、音楽を専門とする立場からアプローチすることにより、法学者とは異なる視点で著作権法について考えています。

今後の展望

鍵盤ハーモニカのワークショップや演奏会の実施を通して、鍵盤ハーモニカを通して音楽を伝えていきたいです。

著作権については、小中学生にとっても身近なものになってきているため、子どもにどのように伝えていくかを考えていきます。

社会貢献等（社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

小学校、幼稚園、保育所等で、鍵盤ハーモニカのワークショップや演奏会の実施を通し、鍵盤ハーモニカを通して音楽を伝える活動をしています。また、著作権に関する講座も実施しています。

4 質の高い教育を
みんなに

16 平和と公正を
すべての人に

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

共同教育学部 教授

きのした だいすけ
木下 大輔

芸術・生活・健康系 音楽分野 作曲研究室

分野 作曲、音楽理論

研究テーマ

- ・演奏会用作品（器楽・声楽）の作曲
- ・こどものためのピアノ作品の作曲
- ・音楽理論、エクリチュール
- ・音楽アウトリーチ

キーワード 作曲、音楽理論、音楽史、音楽アウトリーチ

所属学会等 日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日本音楽学会、日本音楽著作権協会

特記事項 日本教育大学協会全国音楽部門 代表



URL: https://researchmap.jp/kinoshita_daisuke

TEL: 028-649-5242

Mail: [montagne\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:montagne[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

演奏会用作品を中心に作曲活動をおこなっている。作品は、ACLアジア作曲家連盟音楽祭、現音 Music of Our Time など、国内外各地で頻りに演奏されているとともに、楽譜出版・CD発売されており、それらは欧米の主要な大学・研究機関の図書館に所蔵されている。

日本の音楽展・作曲賞受賞。奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門など入賞・入選歴多数。2016年・2017年に個展演奏会を開催。東アジア国際現代音楽祭招待作曲家。

また、こどものためのピアノ作品をソロ、連弾を問わず数多く作曲しており、作曲家たちによる自作自演ピアノコンサート「こどもたちへ」にもたびたび出品・出演している。多くの作品がコンクール課題曲に指定されている。

音楽理論研究者として多くの著書・論文がある。さらに、音楽教育およびその教員養成教育の今日的なあり方について実践研究を重ねており、教員養成音楽科モデル・コア・カリキュラムの提案（2007年・2017年）などをおこなっている。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

1996年より宇都宮大学に勤務し、和声、作曲、音楽分析、音楽史、音楽アウトリーチなどの授業を学生に提供している。

2016年度宇都宮大学ベストレクチャー賞受賞。2019年度・2020年度宇都宮大学学長表彰優秀賞受賞。

主要作品 夏のソナティナ (Ob,Pf)、24の抒情的小品 (Pf)、夢のみち (Mix-cho,Pf/詩:桑原茂夫)、現代の秋 (Pf)、瓦解の宴 (Fl,Cl,Bn)、影 (Vib,Perc)、音楽の旅 (Pf連弾曲集)、Modus tollens (Fl)、晴れた日の記憶 (Cl,Pf)、舞曲集 (Vn,Pf)、追分 (Vc)、弦楽三重奏曲、三つの女の歌 (Sop,Pf/詩:吉原幸子、新川和江)、偏西風 (Mar)、ゆがんだ十字架のヴァリアント (Pf)、夏の旅 (歌曲集/詩:立原道造)、ほか。CD『こだま号で行こう!木下大輔ピアノ作品集』Pf:堀江真理子、前田拓郎 (Nami Records WWCC-7964) 好評発売中。

今後の展望

2024年には多くの演奏会、新たな楽譜出版、新CD制作を予定しています。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- ・横浜市立釜利谷南小学校校歌作曲。
- ・日本教育大学協会全国音楽部門 (全国53国立大学・約260名の大学教員により構成される職能団体) の代表を務め、我が国における音楽教育・教員養成教育の中心的役割を担っている。
- ・カワイ音楽教育研究会「木下大輔公開講座」において、400名超のピアノ指導者にレクチャーをおこなう。
- ・一般財団法人西方芸術振興財団 (栃木市) 理事、NHK宇都宮放送局番組出演、RADIO BERRY (エフエム栃木) 番組監修者・出演者・テーマ音楽作曲者を務める。また、栃木県誕生150周年記念 (県主催) 演奏会に出品するなど、本県における音楽文化の普及・向上に貢献している。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

17 パートナーシップで
目標を達成しよう

分野 管弦打楽器、指揮、合奏

研究テーマ

- ・バリ・チューバアンサンブル
- ・合奏による参加型コミュニケーション
- ・教育団体・地域団体のための分かり易い指揮法

キーワード チューバ、合奏、指揮

所属学会等 日本音楽表現学会、日本管楽芸術学会（発起人）、日本管打吹奏楽学会、JWECC（日本管楽合奏指揮者会議）

特記事項 —



URL:
Mail: takashima[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL: 028-649-5352

研究概要

バリ・チューバアンサンブルを土台に楽器の特徴や役割を探究し、方向性を見出すことにより合奏としての基盤を確立する研究を行っています。個のレベルで奏法の特徴を確認し、改善点を模索しながらより良い方向性を確立します。アンサンブルでは楽譜を読み技術と楽器の奏法棲み分け、呼吸を土台にした楽譜の多様性と演奏法を研究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

実技ですので、「まずはやってみる」ということを意識しています。そこで、他者から見る改善点と自分の状態を確認し、その上で反復的な練習に取り組むようにしています。合奏では授業の特徴を生かし「連携、コミュニケーション」を意識することと、我々の専門領域は「単音楽器」とあるという特性からアンサンブルを通じての「共有」を展開していきます。そして発表の機会を設け、学内外の皆様（聴衆者）と同じ空間での「共有」を行い、そこでそれぞれの立場で感じ取ったものを「継続」していくように致します。

今後の展望

バリ・チューバアンサンブルだけに限らず、中低音楽器の土台的役割は必ず共感する要素があります。そのための教材の開発を考えています。合奏では、「継続」を念頭に置き、多様なジャンルの楽曲研究に着手し、「連携」という形で学内外の機関と協力しながら「参加型」の合奏を発表して参りたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

https://www.utsunomiya-u.ac.jp/activity/research/scholarlist/education/takashima_syogo.php 参照

4 質の高い教育を
みんなに

3 すべての人に
健康と福祉を

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 准教授 平井 李枝

芸術・生活・健康系 音楽分野 平井李枝ピアノ研究室

分野 芸術、音楽、ピアノ、声楽、作曲、音楽学、音楽教育

研究テーマ ・ピアノ演奏に関する研究 ・日本歌曲の演奏法研究
・音楽鑑賞教育 ・アートマネジメント実践
・医療現場における音楽の重要性

キーワード 「Dr.りえのおしゃれなクラシック」、音楽は笑顔になる薬、
音楽で世界をつなぐ・つなげる

所属学会等 日本音楽学会、日本音楽教育学会、日本音楽著作権協会、早稲田大学演劇
博物館、Associació del Concurs Internacional de Música Maria Canals
de Barcelona

特記事項 2012年ヨーロッパメディアの推薦により内閣府「世界で活躍し『日本』を
発信する日本人」にクラシック演奏家として唯一選出されたピアニスト・
音楽博士



URL: <http://tjh.music.coocan.jp/rie/>
Mail: [rie\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:rie[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

公式YouTube



TEL: 028-649-5356

研究概要

東京藝術大学ピアノ科を卒業後、国内外で演奏活動と研究を行う。スペイン・カタルーニャ国立図書館が認めたスペイン音楽研究の第一人者である。2010年に博士（音楽）を取得。全音楽譜出版社よりグラナドス、ファリャ、ラフマニノフのピアノ楽譜集を出版。海外にも輸出。海外の国営テレビ、ラジオ、新聞などに幅広く出演している。2011年カタルーニャ国立図書館よりスペイン音楽研究と普及に貢献したとして栄誉賞受賞。2012年スペインと日本の友好の演奏会「絆」をカタルーニャ州政府主催により同図書館で開催。2012年ヨーロッパメディアの推薦により日本国内閣府「世界で活躍し『日本』を発信する日本人」にクラシック演奏家で唯一選出される。日本政府より称号「Japan.Dr.Rie, The Graceful Muse」と政府公認ロゴを授与される。



2019年5月～12月バルセロナにて研究と演奏活動（60公演）を行う。ヴァル・デブロン大学病院からの要請により、「音楽は笑顔になる薬」のテーマで重病患者への音楽演奏を行い効果を研究。ICUや臓器移植病棟など医療現場の中核で巡回演奏。同病院よりディプロマを受賞。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

日本の未来担う素晴らしい教員を育てています。ベストレクチャー賞受賞（ピアノ弾き歌い、鍵盤アンサンブル）、学長表彰優秀賞（研究）受賞（3年連続）

今後の展望

難しいこともわかりやすく、上品に楽しく、日本の魅力を世界に発信いたします！

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

文化庁事業演奏会「Dr.りえのおしゃれなクラシック」全国小中高校で8万人動員。文部科学省委員、コンクール審査員 ●演奏会・講演会：文部科学省、文化庁、外務省、在日本各国大使館、ASEAN大使会議、カタルーニャ州政府、マルグラット市、Marriott、日本国総領事館、日本人学校、専門店人事研究会、東京都公園協会、新潟県村上市、高知県ほか ●学校芸術教育支援：東京都、千葉県、神奈川県、新潟県、佐賀県、筑西市、高崎市、高知県、栃木県、群馬県、福岡県、山口県ほか ●教員研修会：各都道府県教育委員会 ●ピアノ講師向け講演会：全音楽譜出版社、松澤書店、伊藤楽器、ヤマハ、PTNA、開進堂楽器ほか ●作曲：林林中学校校歌、マルグラット市、ランブラス協会、宇都宮大、横山第一小、杉並第一小ほか ●ステージドレス：(株)三松AIMER



4 質の高い教育を
みんなに

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに

10 人や国の不平等を
なくそう

11 住み続けられる
まちづくりを

共同教育学部 教授 **梶原 良成**
かじはら よしなり
 芸術・生活・健康系 美術分野 デザイン研究室


分野 デザイン学 (建築、環境、空間メディア)

研究テーマ ・地域資源を基にしたデザインによる課題解決
 ・地域におけるコミュニティ空間のデザイン手法
 ・地域プロジェクトをテーマとしたデザイン教育

キーワード 建築設計, 地域設計, 空間デザイン, プロダクトデザイン,
 グラフィックデザイン, デザイン教育

所属学会等 日本建築学会、日本デザイン学会、大学美術教育学会

特記事項 日本建築家協会登録建築家
 一級建築士



URL: <http://www.yoshinarikajihara.com/>
 Mail: [kajihara \[at\] cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:kajihara[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp) TEL: 028-649-5362

研究概要

少子高齢化・人口減少が進む地方において、持続可能な地域づくりのためには、その地域の資源を探り、最大限に生かして、その場所ならではの課題解決のポテンシャルを具体的なカタチで引き出すことが求められます。その場合に必要とされるものづくり・場づくりや情報発信に関わる柔軟な運動体としてのデザインについて、研究しています。

また、地域における上記のような実践的なデザイン活動＝地域デザインプロジェクトをテーマとした課題発見課題解決型のデザイン教育について、研究しています。

写真は、医療法人と協働して設計した精神科デイケア施設。ほかに、外来・医局・管理部門と120床の病棟を備えた精神科病院新棟も同様に協働して設計しています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

これまでに地域地区の計画、大学キャンパス計画から、公共施設、医療福祉施設、教育施設、商業施設、居住施設の建築設計に携わってきています。近年は、医療法人と協働した精神科病院新棟やデイケア施設の建築設計や、県北の道の駅の基本構想案の策定に関わるなどの実績があります。

また教育においては、自治体や地域の店舗・宿泊施設・事業所などと連携して、情報発信や商品・パッケージ、店舗空間などのデザイン、また地域の商店街の将来構想案のデザインをゼミや授業と連携して行い、研究と教育の往還を図っています。

今後の展望

今後は、自治体や事業所などと連携したまちづくりや施設などのデザイン実践の研究をさらに充実させていき、また自治体や地域の店舗・事業所などとのデザインプロジェクトをゼミや授業と連携して行い、研究と教育の往還を発展させて行きたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

精神科病院新棟・デイケア施設建築設計 (医療法人直志会と協働)、道の駅「那須高原友愛の森」総合計画案策定 (那須町と協働)、那珂川町産学官連携ブランディングデザイン事業 (那珂川町と連携)、宇都宮市景観アドバイザーとして地域住民との宇都宮市大谷地区の景観まちづくり計画の策定、認定NPO法人もうひとつの美術館の企画展のアートディレクションやデザイン協力など。



分野 絵画技法論 美術教育

研究テーマ

- ・油彩画制作における描写法
- ・地域における展覧会を通じた美術普及活動
- ・芸術教科における横断的カリキュラムの開発

キーワード 油彩画, アートワークショップ, 展覧会

所属学会等 大学美術教育学会、基礎造形学会、美術科教育学会

特記事項 一般社団法人二紀会会員、栃木県新作家集団事務局



URL: <http://kabuta.amebaownd.com>
Mail: [mkabuta\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:mkabuta[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

TEL: 028-649-5365

研究概要

【油彩画制作における描写法】

対象の描写を主軸とした油彩画を制作しています。その中で複合的な素材（アクリル絵具や顔料マーカーとの併用）の使用法について研究しています。また近年では、19世紀イギリスの画家であるアトキンソン・グリムショー（Atkinson Grimshaw: 1836～1893）の作品を対象として夜景絵画の描画法についても調査および研究しています。

【地域における展覧会を通じた美術普及活動】

栃木県内で毎年展覧会を企画しています。展覧会では展示会場の選定、作品の配置やパーティションなど、展示方法を模索しています。

【芸術教科における横断的カリキュラムの開発】

学校教育における美術科と音楽科の教科横断的なカリキュラムについて研究しています。廃材を利用した手作り楽器の試作を行っています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

絵画を専門分野としているため、アートワークショップの企画、実践を行うことができます。右の写真は2021年11月に鹿沼市で開催された「AWANO 夢咲く ART FESTIVAL」で行った子ども向けワークショップの様子です。ジオラマのように各々が描いたものを立てています。



今後の展望

継続的に行っている油彩画における描写法の研究を進めます。特に夜景絵画についてグリムショーの作品調査を基に、実験制作を行う予定です。また、上記のような子ども向けのアートワークショップを企画、実践します。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

地域のギャラリーで作品展示を行っています。その他、地域の自治体等が主催する美術展での審査員や展覧会での作品解説を行い、美術の普及に取り組んでいます。



分野 美術教育、芸術学

研究テーマ ・美術教育研究：「図画工作科・美術科および美術館の教育研究」「美術教育の理論と歴史」
・芸術学研究：「近現代美術の理論と歴史」



キーワード 美術教育, 鑑賞, 美術館教育, ワークショップの実践と理論, シュルレアリスム, 美術受容史, モダニズム, 美術と社会

所属学会等 大学美術教育学会、美術科教育学会、日本美術教育連合、環境芸術学会、美学会、美術史学会

特記事項 研究を通して「子ども・美術家・美術作品・美術の歴史・美術と社会」を見つめる。

URL: -

TEL: 028-649-5363

Mail: yug5256[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

美術と人と社会に関する理論と実践の研究を美術教育と芸術学の領域から展開している。美術教育研究においては実践およびその歴史と理論、また、芸術学においては近代以降の美術概念の変容に基づく美術作品や美術のあり方などを基に各研究に取り組んでいる。これまでの研究の方向性を概略として以下に示す。

■美術教育研究

図画工作・美術の授業（題材・教材研究）／鑑賞教育／美術館教育／造形ワークショップの理論と実践／美術教育史／美術教育思想／大学における教員養成と美術教育

■芸術学研究(美術理論・美術史)

近現代美術／シュルレアリスム／モダニズム／美術受容／美術と社会・人に関する美学芸術学研究



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

美術および美術教育に関する実践と理論の両面から教育研究活動にあたっている。美術教育研究と芸術学(美術理論・美術史)研究の視座から「見る／つくる」を総合的に捉え、その諸相を歴史と理論を軸に研究している。また、学校教育から美術館教育にいたるまで今日の社会における美術と教育の実際に積極的に働きかけている。

今後の展望

美術とは何か？美術教育とは？

ひとつひとつの研究を深めながら大きな問いに常に向き合って行きたい。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

小中学校教科書執筆編集(図画工作科、美術科)、宇都宮美術館協議会委員、栃木県立美術館造形ワークショップ、作品展審査等、研究を通して全国の小中学校や地域社会の教育に貢献している。



芸術・生活・健康系 美術分野

分野 工芸（漆工芸）**研究テーマ** ・漆造形表現研究
・アジアの漆工芸研究**キーワード** 工芸, 漆芸, 乾漆, 漆造形, アジア漆工芸, 東南アジア**所属学会等** 日本文化財漆協会, 漆工史学会, 漆を科学する会, 日本教育
大学協会全国美術部門・大学美術教育学会**特記事項** アジア漆工芸学術支援事業(任意団体)を組織し活動をおこなっている。URL: <https://sakurako.com> <https://asian-urushi.com> <http://www.edu.utsunomiya-u.ac.jp/crafts/>
Mail: sakurako[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

漆工芸の分野において、漆造形研究として作品制作、そして1990年代後半より、中国・東南アジアの漆工芸産地を訪れアジア漆工芸の調査研究を行ってきた。2005年にアジア漆工芸学術支援事業(任意団体)を立ち上げ東南アジアを中心に技術公開やワークショップなど、漆工芸職人や漆芸研究者とともに、宇大生や国内の芸術系大学生と現地の学生との多国間教育交流活動を通し、若い世代に漆工芸文化の魅力を伝える支援を行ってきた。経済変化の大きい東南アジア各地の最新の漆工芸現状学術調査を行い、その成果(調査記録と提案作品)を国際展覧会にて発表、さらにアジアの漆工芸文化の記録・現状・未来への提案に関する資料(ビデオアーカイブ)の作成を継続的に行っている。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学生は素材に触れ、道具を使用しその素材を加工し、表現に転化させる経験が少ない。授業では、実素材に直接触れ、手指や体を使い、素材が工芸技術を通して制作していく過程で、どのような表現の可能性があるかを考えられるよう、多くの機会を提供していきたい。産地見学や漆工芸を通じた国際交流活動も行なっている。

今後の展望

引き続き、漆造形表現研究としての作品制作、変化するアジア各国の漆工芸現状調査研究、漆工芸を通じた交流やデザイン開発に取り組みたい。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- ・展覧会・ワークショップ等の企画・運営
2022年9月「アジア漆の造形と祈りー東南アジアの漆ー展」東京藝術大学大学美術館陳列館 企画運営
2012年9月「漆・うるわしの饗宴展」(巡回展 東京・京都・福島)
その他、ミャンマー、タイ、ラオス、ベトナム、カンボジア、中国等、国内外での企画や出品多数。
- ・地域の公募展の審査
栃木県美術展、神奈川県美術展、Global Eco Artisan Awards Jury (AGAATI Foundation) 他

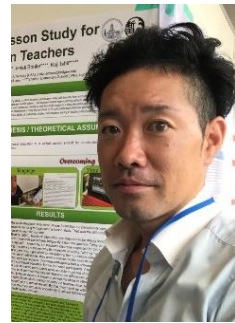
分野 体育科教育

研究テーマ ・家庭と学校をシームレスにつなぐポートフォリオの研究
 ・体育におけるICT（1人1台端末やVR、AI等）の活用
 ・構成主義に基づく体育の授業デザインや教材開発

キーワード ICT, 学習評価, ポートフォリオ, 保護者, 学校を中心としたコミュニティ, ボール運動, 教材研究, VR

所属学会等 日本体育-スポーツ-健康学会, 日本体育科教育学会, 日本教育工学会, 臨床教科教育学会, IAHPEDS (アジア事務局長)

特記事項 GIGAスクール構想によって配布された1人1台端末の体育における有効的な活用方法に取り組んでいます。



URL:
 Mail: koji.ishii [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

TEL:028-649-5383

研究概要

ICTを活用して家庭と学校をシームレスにつなぐポートフォリオの研究をしています。体育の学習成果は通知表で表される「1～5」の通知では保護者に適切に伝わりません。また、保護者の子供への影響は強く、保護者の有している学習観や、子供への関わり方は子供の学習面や体力面にも影響します。そこで、ICTを活用した体育のポートフォリオを子供、保護者、教師間で共有することで、保護者に適切に子供の体育の学習成果を伝えると共に、保護者を学校体育により積極的に関与させようと考えています。

また、1人1台端末やVR, AIの活用や遠隔地とつないだ体育など、テクノロジーと身体活動を融合させたSociety5.0時代の体育実践の研究も進めています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

私は東京都で16年間小学校教員として勤務していました。その経験を活かして、講義での理論的な部分と模擬授業などの実技を通した実践的な授業構成で授業をデザインしています。具体的には、小学校、中学校及び高等学校の教員を目指す学生に「小学校体育」や「初等体育科指導法」、「中等保健体育科指導法」などを担当しています。これらの授業や研究室でも実際にテクノロジーを活用した体験的な学びをしています。



今後の展望

- ・体育におけるシームレスな学習評価による学校を中心としたコミュニティ変容の実証的研究
- ・メタバース・ボールゲームの体育実践



社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

小学校・中学校を中心に体育の授業づくりや実技研修を現職の先生方と協働で行っています。また、GIGAスクール構想における1人1台端末の具体的な活用方法に関する講演も行っています。さらに、家庭と学校、地域の連携に関する助言や講演も行っています。お気軽にお問い合わせください。



分野 体育科教育

研究テーマ ・体育教師の事前計画立案に対する認識と意思決定の研究
 ・体育授業の授業づくりと教材研究
 特にボール運動系（ゴール型・ネット型・ベースボール型）

キーワード 教師の意思決定, 事前計画, 教材研究, ボール運動, 球技

所属学会等 日本体育・スポーツ・健康学会, 日本スポーツ教育学会, 日本体育科教育学会, 臨床教科教育学会, 北関東体育学会

特記事項 「3X3」3人制バスケットボールの教材化やクリケットの教材化に挑戦しています。



URL: -

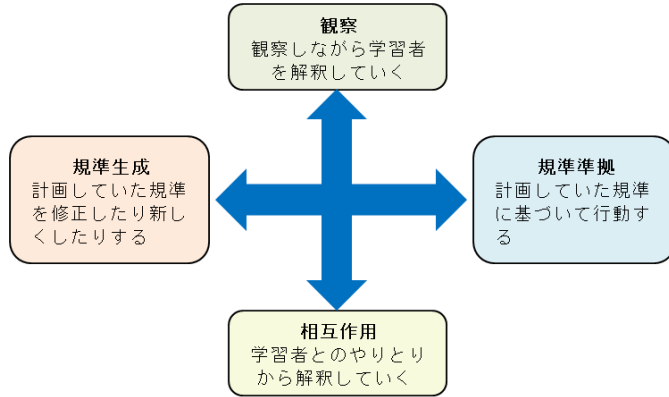
TEL: 028-649-5382

Mail: ishizuka [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

体育を担当する教師の事前計画に対する認識と授業中の教授行動の関連を研究しています。特に熟練教師は右図のように事前に計画した規準を柔軟に運用しながら授業中の行動を意思決定しています。このような教師の適切な意思決定を支えるために、事前にどのような視点で計画を立てておくべきかを考えています。

また、ボール運動・球技系の領域の教材研究を行っています。学習者の「ゲーム理解」を第一に考え、シンプルな課題設定を行うことで学習を深め、よりよいゲームへの参加を実感できるような授業づくりを目指しています。具体的には、小学校、中学校における「3X3」3人制バスケットボール（ゴール型）やクリケット（ベースボール型）の教材開発と有効性の検討を進めています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学部では、小学校、中学校および高等学校の教員の養成にあたって、「小学校体育」「初等体育科指導法」や「中等保健体育科指導法」などを担当しています。私自身の17年の小学校教員としての経験を生かし、実践と理論を融合させた授業内容を意識しています。すぐれた授業を観察することや実技を通じた教材研究も取り入れています。



今後の展望

- ①体育授業における事前計画立案の視点を発達段階（学生、初心期、中堅期、ベテラン期）ごとに検討します。
- ②「3X3」3人制バスケットボールとクリケットの教材開発と有効性を検討します。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

栃木県内を中心に小学校の授業づくりや実技研修会等を行っています。また、子どもの体力向上に関する取り組みも行っています。写真は、学生・教員向けに行なったクリケット講習会（佐野市）の様子です。





分野 発達バイオメカニクス、運動学習

- 研究テーマ**
- ・発育期における運動発達に関する研究
 - ・教員の運動観察力の向上に関する研究
 - ・体育授業におけるICTを用いた学習に関する研究

キーワード 発達バイオメカニクス、子どもの運動指導（とくに走・跳・投運動）

所属学会等 日本体育・スポーツ・健康学会、日本発育発達学会、日本バイオメカニクス学会、日本陸上競技学会

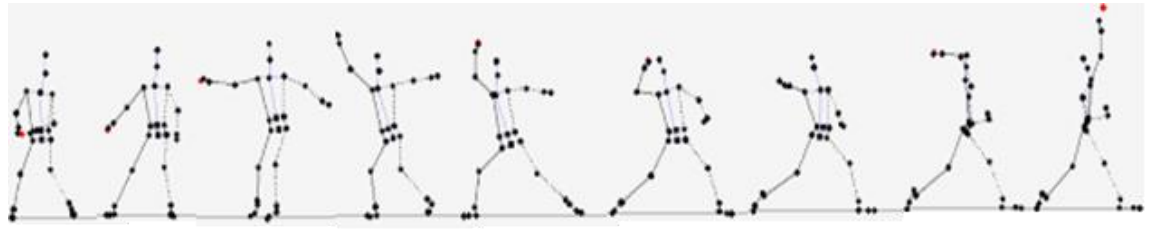
特記事項 運動発達に関する理論にもとづいた指導や運動の評価



URL: - TEL: 028-649-5384
Mail: katok[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

子どもの体力は低下傾向にあり、体力・運動能力調査から、昭和60年頃を境に子どもの走る力、投げる力などは、全年代において長期的に低下の一途をたどっていることが明らかにされています。こうした問題に対応するには、パフォーマンスのような量的な数値データではなく、動き方の特徴のような質的なデータが重要となります。下図は、男子小学生の投動作をコンピュータによって動作を解析したものです。こうしたデータをもとに、子どもの各種運動（動作）の特徴を明らかにしていきます。そして、望ましい動作モデルの動きに対して動きのポイント（注意点）や体力的な運動プログラムを具体的に提案します。また、体育を専門としない小学校教員の先生に対して、動作の良否を評価するための運動観察の観点を理解するための研究も行っています。



教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

就学前の幼児から中学・高校生までの運動能力（動作発達）について研究しています。その中で、走・跳・投などの運動能力を記録だけでなく、その動き方を評価する観点を明らかにしようとしています。そして、これまでの研究成果をもとに各年齢に応じた体力や運動能力を高めるための具体的な対策や方法についてアドバイスしたいと考えています。最近では、運動指導における運動観察力の向上させるための研究や体育授業においてICTを活用して効果的な学習成果を得るための研究も行っています。

今後の展望

今後は、運動学習に役立つ運動観察力を向上させるための研究や体育やスポーツ指導において効果的なICTの活用方法を提案できるよう研究を進めていきたいと考えています。

社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

発育期（とくに就学前から中学生）におけるスポーツや運動指導の在り方に関する講演や講習をこれまで数多く行ってきました。栃木県教育委員会のとちぎ子どもの未来創造大学の体験講座「子どものかけっこ教室」を開催してきました。その取り組みは、将来教員を目指している学生も参画し、スポーツ指導を通して子ども理解を深める活動に役立っています。また、現職教員、とくに小学校教員の体育やスポーツ指導力の向上に関する支援についても協力したいと考えています。



分野 学校保健, 保健体育科教育, 健康教育

研究テーマ

- ・学校での保健教育におけるアクティブ・ラーニング等の実践研究
- ・青少年の危険行動の防止などの現代的な健康課題への対応についての研究

キーワード 保健教育, アクティブ・ラーニング, 教科等横断的な学び, 喫煙・飲酒・薬物乱用防止

所属学会等 日本学校保健学会, 日本体育学会, 日本公衆衛生学会, 日本健康教育学会

特記事項 -



URL: -

TEL: 028-649-5380

Mail: kubo [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

【学校での保健教育におけるアクティブ・ラーニング等の実践研究】
アクティブ・ラーニングの視点からの各教科等での授業改善が求められている中で、体育科・保健体育科の保健授業などを中核とした保健教育において、児童生徒の理解の質や思考力の向上を目指した授業実践研究を行っています。これまで、ICT機器クリッカーを用いたピア・インストラクション、協調学習としての知識構成型ジグソー法、反転授業などを取り入れた実践を行っており、授業内容に関する知識や意識についての授業実施前後での変容、授業中の児童生徒の学習活動（発話内容、記述内容等）などから評価を行っています。

【青少年の危険行動の防止などの現代的な健康課題への対応についての研究】
青少年の健康や命に関わる危険行動（喫煙、飲酒、薬物乱用、性的行動、暴力等）の防止に関わって、それらが「青少年期に始められやすい」「大人になるに従って定着、悪化する」「相互に関連する」等の特性を持つという仮説を検証したり、それらを防止するうえで有効な心理社会的要因などを探究したりすることを、質問紙調査に基づく統計解析によって行っています。また、危険行動以外にも、スマホ依存、熱中症などの現代的な健康課題の実状等についても質問紙調査によって把握しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学部では、小学校教員および中学校・高等学校の保健体育科教員の養成にあたって、教科の指導法に関する科目として「中等保健体育科指導法（保健）」や「健康教育」を、教科の専門的科目として「衛生学及び公衆衛生学」などを担当しています。大学院では、学校と地域社会との連携による健康教育の推進についても扱う「ヘルスプロモーション特論」を担当しています。教科の専門性と指導法との有機的な連携や、学校と地域社会との協働を意識した教育・研究活動を進めることができると思います。

今後の展望

リテラシーやコンピテンシーなどの資質・能力を効果的に育成するための保健の授業実践や、教科等横断的な視点での保健教育の充実の方向性についても検討していきたいと考えています。
また、青少年期の危険行動に関しては近年、減少傾向にあることが報告されているものの、新たにノンアルコール飲料や電子たばこなどの代替品も普及しています。青少年にとってそれらの使用がどのような影響を及ぼし得るのか、検討していきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

附属小・中学校や公立小・中学校などの学校現場や、保健所などの地域の専門機関との連携によって、教育・研究活動を進めています。児童生徒の健康に関する課題や教育的課題の解決に向けて、教員養成の立場から貢献できるよう、取り組んでいきます。

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

17 パートナーシップで目標を達成しよう

共同教育学部 准教授

まつら ゆうき
松浦 佑希

芸術・生活・健康系 保健体育分野 体育・スポーツ心理学

分野 体育・スポーツ心理学

研究テーマ ・多様な感覚経験を重視したボトムアップ型の運動指導・学習方法の研究
・心身の自己調整法に関する研究

キーワード 運動学習, 運動制御, 指導/学習方略, ICT教材, 器械運動, 体づくり運動, 自律訓練法

所属学会等 日本体育学会, 日本スポーツ心理学会, 日本体育科教育学会, 北関東体育学会, 日本自律訓練学会

特記事項 ラート競技日本代表. ラート体験会, パフォーマンス等の依頼は, 日本ラート協会事務局 (office@rhoenrad.jp) を通してご連絡ください.



URL: -

TEL: 028-649-5378

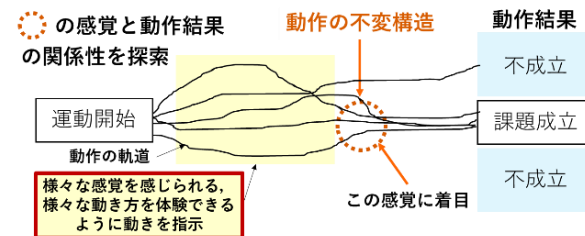
Mail: yuki-matsuura [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

学習者の主体性な取り組みを重視し、学習者一人ひとりに合った運動技能をより効果的にボトムアップで身に着けさせることを可能にするための運動の学習・指導方法の研究をしています。右図は、機械学習を応用し考案した感覚経験型指導法（松浦ほか、2018; 2021）の概略図です。自身の競技経験と指導経験から、理想的なやり方を繰り返し練習するだけでは、個々人に合う・合わないという問題だけでなく、応用力や適応力も身に付かないことを身に染みて痛感しました。それを乗り越えるものとして、学習過程に様々な運動の経験をすることの重要性を実感し、感覚経験型（ボトムアップ型）の考え方に辿り着きました。色々な意味での“あそび”が重要であると考えています。

感覚経験型指導法 (松浦ほか, 2018, 2021)

- ① 不変構造を構成しているパラメータだけ教える
パラメータ:ある身体部位とかの位置関係・速度・力・方向・角度 etc...
- ② その感覚に注意を向けさせたまま色々な感覚を経験させる

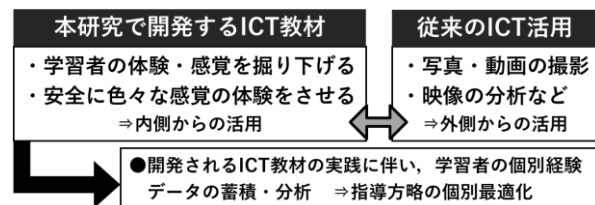


教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教育活動では、講義科目であっても学生自身の実際の体験、思考を通して学ぶことができるように工夫しています。研究室の活動では、学生の興味を大切にして、幅広い視点から共に学びを深めることができるように意識して活動を行っています。

今後の展望

今後の展望は、ICTと個別経験データを活用した学習者のセルフメイド型運動指導法の開発です。学習者自身の個別経験データ×ICTを活用して、学習者の学習プロセスや特性に関する情報などを機械学習によって分析し、学習者の特性に応じた指導方法を検討、ICT教材化していきたいと考えています（右図）。



社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

ラートの体験講座やパフォーマンスなどを小・中学校や各種イベント等で実施しています（右図参照）。お気軽にお問い合わせください。



1 貧困をなくそう



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



10 人や国の不平等をなくそう



16 平和と公正をすべての人に



共同教育学部 准教授 良香織

うしとら かおり

芸術・生活・健康系 家政分野

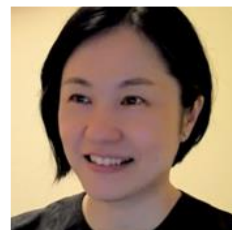
分野 保健学 教育学

研究テーマ
・ 包括的性教育
・ 人権教育
・ 児童福祉

キーワード 包括的性教育, 人権教育, 家庭科教育

所属学会等 日本人権教育研究学会 日本思春期学会 社会事業史学会
日本学習社会学会

特記事項 —



URL: -

TEL: 028-649-5372

Mail: k-ushitora [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

- ・ 就学前の子どもから大人までの性の健康は基本的人権です。性教育や人権教育はこれを保障するための重要な権利です。国内外の授業観察や教材分析を通して、学校や家庭、社会教育でどのような実践が可能なのかを研究しています。
- ・ 戦争孤児の戦後史について、児童養護施設等に残された史料や聞き書き調査から考察をしています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

学部では、小学校教員および中学校・高等学校の指導法に関する科目と、教科の専門的科目「児童福祉論」「子どもの保健」「保育学」などを担当しています。大学院では、「性と人権論」や「共生社会論」などを担当しています。いずれの科目も、人権をベースとしています。

今後の展望

- ・ 子どもの権利が、保育や教育の現場や民間団体でどのように位置付けられていたのか、その特徴を明らかにすべく、実践記録や聞き書き調査の分析を進めています。
- ・ 乳幼児期の特徴をふまえた包括的性教育のカリキュラム案を現場の保育者や保護者らと作成中です。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

- ・ 教育機関、民間団体、行政で人権や性に関する研修や各種委員会に関わっております。

[研究者詳細 - 良香織 \(utsunomiya-u.ac.jp\)](https://utsunomiya-u.ac.jp)

2 飢餓をゼロに

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

17 パートナシップで目標を達成しよう

共同教育学部 助教 カバリエロ 優子

芸術・生活・健康系 家政分野

分野 栄養学、食育、家庭科教育

研究テーマ

- ・パラグアイ共和国における食事と肥満との関連
- ・カテキンリッチ破砕ブレンド緑茶の開発と官能検査
- ・教員養成課程における指導力向上を目指した調理実習

キーワード 栄養疫学、国際栄養、エネルギー代謝、食育

所属学会等 日本家政学会、日本家庭科教育学会

特記事項 「重回帰分析を用いた心拍数からMETsを推定する数式の検討」が博士論文のテーマでした。食事摂取エネルギーと生活活動による消費エネルギーとのバランスを保ち、健康的で豊かな食生活を実現することが研究の最終目標です。



URL: -
Mail: yukocaballero [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

【パラグアイ共和国における食事と肥満との関連】

肥満とそれに伴う生活習慣病が深刻なパラグアイ共和国において現地食事調査を行いました。食事データから食事の傾向と課題を明らかにし、効果的なダイエットのためのメニューを作成することを目指しています。

【おいしくてカテキンの多い破砕ブレンド緑茶の開発と官能検査】

カテキンをより多く抽出するためには、どのような製造工程や茶葉のサイズが最適か、またドリップによる抽出方法はカテキン抽出量とし好性にどのような影響をもたらすかなどを緑茶業者と共同で研究しております。

一食の小麦粉料理の食べ方と平均摂取エネルギー			
小麦粉料理 + 嗜好飲料	小麦粉料理2種		
男性 804kcal, 女性 641kcal	男性 964kcal, 女性 851kcal		
小麦粉料理 + いも料理	小麦粉料理 + 米またはとうもろこし料理		
男性 946kcal, 女性 768kcal	男性 1059kcal, 女性 800kcal		

パラグアイ共和国での食事調査内容

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

【コロナ禍における調理実習指導力向上のためのハイブリッド型授業の検討と課題】

完全に対面調理実習を行えない状況においても、調理技術と指導力を兼ね備えた教員を育成するために、オンラインや自宅実習による効果的な教材の開発と模擬授業実施の効果を研究しています。

【栄養学の授業】

栄養をマクロとミクロの視点から捉えて、国際栄養の視点も交えながら授業を行っています。授業を通して、今後の食にかかわる課題を学生と共に考えることを重視しています。

今後の展望

生活習慣病や栄養不足の予防のためには健康的な食習慣が大切ですが、日々の栄養管理は難しいのが現状です。そこで、簡単に食事管理ができるような食器やシステムの開発を行いたいと考えております。具体的には、益子焼のような美しい食器に料理をよそうだけで、栄養バランスのとれた食事がとれる方法を考えています。

教育面では、学習指導要領の改訂に伴い、小・中・高で整合性のとれた食品群分類の再構築が必要であると考えております。

社会貢献等

(社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

社会教育団体であるガールスカウトに長年にわたり所属しております。地域の子どもの健全育成のために食の面から何かできることはないだろうかと考えております。

**分野** 生活科学(衣生活領域)・生活環境学・感性教育・幼児教育**研究テーマ**

- ・伝統染織を軸とした保育・授業実践研究
- ・伝統文化・地域資源の活用に関する感性教育研究
- ・和服の新たなポテンシャルを引き出す感性工学研究

キーワード 感性, 家庭科, 幼児教育, 保育環境, 伝統染織, 藍染, 里山, 衣生活, 和服, 結城紬, 生活環境, 持続可能性, 環境教育**所属学会等** 日本感性工学会, 日本家政学会, 日本家庭科教育学会, 日本繊維製品消費科学会, 天然染料顔料会議**特記事項** 持続可能な社会の担い手とその支援者の育成を, 伝統染織を主として感性教育的なアプローチしています。感性に関わる研究を共に行いませんか?URL: <https://www.facebook.com/uuenv>

TEL:028-649-5369

Mail: [sasakika\[at\]cc.utsunomiya-u.ac.jp](mailto:sasakika[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp)

研究概要

元々の専門は繊維工学で, その中でも人間感覚計測という分野で繊維(衣服)と人の関係を明らかにする感性工学的な手法について, 快適性をキーワードに研究をしていました。その後, 家庭科教育に関わることになり, 生活科学に軸足を移しつつ, 「ものづくり」という人類普遍の発達を保障する行為を感性教育としてどのように取り入れていくかを探求してきました。そもそも「感性」をどのように捉え, どう科学していくのか? という問いから出発し, 感性とは関係性創造能力であり, 価値創造に関わる主体性を育む教育が必要と考えています。とくに, 「もと」と「自己」の関係性が希薄化する現代社会の課題を「プロセス感覚」という概念で説明し, これを豊かにする教育方法を開発するという立場から, 豊かな感性を育む衣生活教育について研究しています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

当研究室では「ものづくり」として「伝統染織(伝統的な衣生活)」をターゲットに, 様々な教材研究を行っています。とくに, 日本の伝統色の一つである「藍」を教育プロセスに組み込むことに注力しています。これまでは, とくに幼児教育と生涯教育において藍を活用した持続可能な発展のための教育(ESD)について, 数多くの実践研究を重ねています。また, これら教育の場をフィールドに大学の授業を展開し, 卒業研究・修士研究も手がけてきました。今では教員や地域の実践者として活躍してくれています。

今後の展望

保育園・こども園と連携して進めている「0歳からの草木染」プロジェクトを基盤に, 工芸作家・農業・福祉・教育と連携しながら, インクルーシブな地域づくりに発展させていくことを考えています。自立の基礎である土台づくりの幼児期においてこそ, 感性の視点からの教育支援が大切です。今後は, 幼児期での実践の成果を特別支援教育に適応させ, 地域と共に生きていくことが可能な社会の実現に寄与したいと考えています。地域の実践者との連携を進めていきたいと思えます。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

宇都宮大学おやまサテライトプラザ市民講座(2016-2018)

結城紬に関する研究成果(SCOPE[総務省戦略的情報通信研究開発推進事業]採択事業「結城紬の感性評価に基づいた質感伝達技術に関する基礎研究」(代表:石川智治[工学部教授])を地域に還元する取り組みとして, 小山市総合政策課・工業振興課・産地組合との協働で開催した市民講座。

エコ・ハウスたかねざわ市民講座「里山文化基礎講座・実践講座」

2006年に高根沢町環境学習センター「エコ・ハウスたかねざわ」との連携で結成した市民団体「里山文化の会」は, 藍と和綿の栽培から里山文化を見つめ直し, そこで醸成されてきた衣生活文化の再生を目的にして活動してきた。現在は, 有志会員で里山文化工房として独立し, 生涯学習団体として地域に寄与している。ここでの資産を生かし, 現在では里山文化基礎講座として2年間の会員制講座として, 年10回のプログラムを開催しています。



分野 教育学、教育方法学

研究テーマ ・教育（教育実践）の哲学的問いなおし
・対話としての授業
・幼児教育

キーワード 感受性、対話、表現、カウンセリング

所属学会等 日本教育学会、日本カリキュラム学会

特記事項 大げさに聞こえるかもしれませんが、「自分が生きている意味とは何か」、「人の中に潜在している宗教性とは」等の視点から教育・人間形成について考えています。



URL: -

TEL: 028-649-5337

Mail: aoyagi[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

フランスの哲学者であるエマニュエル・レヴィナス（1906～1995）の哲学から、「教育の倫理」、「教育実践のあり方」を問いなおすところを続けています。「教育」とは、「学ぶ」となみ、「教える」となみであると同時に、「ケア」のいとなみでもあります。また、子どもは一方的にケアされる対象ではなく、子ども自身が他者と世界をケアしようとしています。私は、レヴィナスの哲学を「ケアの倫理」として捉えた上で、そこから子どもを「ケアの主体」として捉えかえたいと考えています（青柳,2024）。

また、私は、例えば、「生と死の教育」の実践をささやかながら続けてきました。「死」を想うとは、ある意味で、自己の死よりも、他者の死を想うことではないでしょうか。自己が生きている意味は、他者と生きていることから生まれているのではないのでしょうか。そして、この「他者と生きている」ということがそのまま「ケア」と重なります。詳しくは、是非、「レヴィナス」、「ケアの倫理」、「生と死の教育」、「青柳宏」等で検索してみてください。青柳宏(2024). ケアの倫理をもとめて（その四）：M.メルロ＝ポンティとE.レヴィナスの思想を比較しながら。（『宇都宮大学共同教育学部研究紀要』第74号）

教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

私は、県内の小中学校でスクールカウンセラーをおよそ25年間続けてきました。こうした経験と、上に記した哲学的知見を統合して、教育実践（また広く教育のあり方）について語り合うことが出来る、ということが私の強みです。「哲学的」といっても、難しいことを語るのではなく、例えば絵本や詩や童話を素材（教材）にしなが、学生・院生一人一人の感性（感受性）を開いていくような授業をこころがけてきました。

また、私は主に小中学校の現場で、国語、社会、道徳、総合学習等の時間に、「対話としての授業」を実践してきました。子ども（生徒）自身が、他者と世界をケアする主体性を育てていく「対話としての授業」です。

また、長年、附属幼稚園にお邪魔して、幼児教育に係わる研究も続けています。「幼児教育」の視点と、ケアと対話を重視する「哲学」の視点と、カウンセリングという「臨床」の視点の交点で「教育・人間形成」を捉えたいと思い、教育・研究を続けています。

今後の展望

これまで主に小中学校で授業をしてきましたが、高校でも、生徒自身が、他者と世界をケアする主体性を育てていく「対話としての授業」を行ってみたいと考えています。

社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

スクールカウンセリングの経験をふまえ、子ども（思春期を含む）の心の問題について取材等を受けたいと思います。学校等の教育機関において、特に「対話」「表現」等の視点からの授業・研修のサポートが出来ると思います。また、「対話」「表現」等に係わる教育についての取材等を受けたいと思います。



教職大学院 教育実践高度化専攻

分野 技術教育 ICT教育 プログラミング教育

研究テーマ ・小学校におけるLMSを活用したプログラミング学習
・GIGAスクール構想における効果的なICT機器の活用
・地域活動におけるプログラミング教育

キーワード 技術教育ICT, プログラミング, GIGAスクール, 協調学習, 教育行政, 産学連携, 部活動, 地域クラブ活動, 3Dプリンター, レーザー加工機, CNCルーター, STEAM教育

所属学会等 日本産業技術教育学会 日本部活動学会 自動車技術会

特記事項 3Dプリンター, レーザー加工機, CNCルーター, 教育用フィジカルコンピューティングデバイス



URL: - TEL: 028-649-5330
Mail: takashi.ishijima[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

主に小・中学校における技術教育についての研究をしています。
文部科学省が推進するGIGAスクール構想により小・中学校のICT 環境整備及び1人1台端末の利活用が進み、教育のスタイルが大きく変化しています。探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う上で、ICT機器の利活用は重要な役割を果たしています。しかしながら、生成系AI等の技術の進化も目覚ましく、常に持続可能な教育の在り方が求められています。
中学校技術・家庭科(技術分野)の教科の研究を中心に、協調的な学びや探求的な学び、ものづくりを中心としてSTEAM教育等の実践研究や教材開発も行っています。



教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教員養成関係、製図、データサイエンス、授業実践基礎、学習科学と協調学習等の講義や実習を受け持っています。
授業では、未来を担う先生を目指す学生やミドルリーダーである現職の教職大学院生とともに、実務家教員としての経験を生かしたより実践的で具体的な内容となるように意識しています。また、教員採用試験対策や小・中学校のGIGAスクール構想に対応したICT関係のサポートも精力的に実施しています。
小・中学校や地域活動におけるプログラミング学習等のボランティア活動、小・中学生を対象としたものづくり教室やプログラミング教室の開催、技術分野で連携している養護園におけるものづくり教室等を学生とともに実施しています。

今後の展望

今後は、プログラミング教育等によるGIGAスクール構想における1人1台端末の利活用についての研究を深めるとともに、企業や地域、自治体との連携による日本の科学技術教育の新たな形によるレベルアップを目指していきたいと考えています。その上で、企業と教育行政との連携は不可欠だと考えます。クラウドファンディングやNPO法人を介した連携等により、教育用フィジカルコンピューティングデバイスやプログラミングコンテンツの教育現場への実践的な導入についての方策を模索していきたいと思っています。
また、大学として小・中学校の先生方の支援の必要性も認識しています。働き方改革が進む中、先生方の負担とならない形で何ができるのかについても考えていきたいと思っています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

教育用フィジカルコンピューティングデバイスやプログラミングコンテンツの教育現場への導入支援
小・中学校向けのプログラミング教室、ものづくり教室の実施
自治体、小・中学校、PTA等への情報教育・情報モラル教育・ICT関連の講演の実施や研修等の支援
教育現場における3Dプリンター、レーザー加工機、CNCルーター等の実技研修等の実施



分野 特別支援教育, 障害児心理学, 重複障害教育

研究テーマ ・各種障害事例における自成信号系活動の促進と構成信号系活動の形成
・障害の重い子どもとの共創コミュニケーション
・障害の重い子どもとの学習と対話

キーワード 行動体制と信号系活動, 共創コミュニケーション, 学習と対話, 実践研究 (Action Research)

所属学会等 日本特殊教育学会, 日本教育心理学会, 日本発達障害学会等

特記事項 障害の重い人が抱える困難な状況に即した教育的係わり合いのあり方を個別具体的に検討します。



URL: <https://researchmap.jp/read0131738>

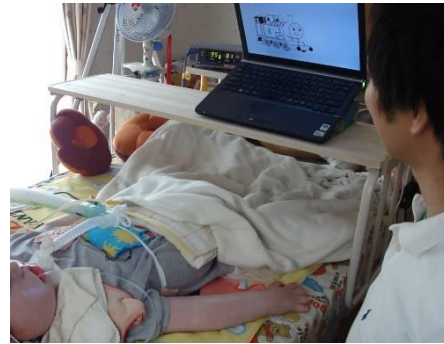
Mail: okazawa[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

様々な厳しい条件を抱えて生活される人が自身のもてる力を十分に発揮し、周囲のヒトやモノとのコミュニケーションや相互交渉を拡げていくような教育的係わり合いについて、実践研究 (Action Research) を行なっています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

ある人において、あるとき、“とまどい”や“つまづき”、“とどこおり”が起こることを“障害”にとらえれば、教育的係わり合いのなかでは、厳しい条件を抱える方のみならず、係わり手もまた障害状況に直面します。こうした障害状況から立ち直るための方略を考え、工夫し、実践することが、教育においては学生に願うことであり、そうした取り組みから得られた見識を蓄積することが研究の目指すところでもあります。



今後の展望

教育的係わり合いにおいては、コミュニケーションの視点が重要です。コミュニケーションは、共同性と相互性の二面からとらえることができますが、共同性に関する研究の蓄積が必要です。障害の重い方と係わり手との教育的係わり合いの資料に基づき、相互行為分析を重ねるなかで、共同性の諸相を明らかにしていきたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

様々な厳しい条件を抱えて生活される方の教育相談をしています。また、学校や施設を訪問し、教員や職員と一緒に障害の重い方との教育的係わり合いを重ねたり、教育実践の検討をしたりしています。なお、ここでいう“障害の重い人”とは、重度・重複障害、重症心身障害、超重症児、重度知的障害、先天盲ろう、などの条件を抱えている人のことをいいます。

4 質の高い教育を
みんなに

10 人や国の不平等
をなくそう

16 平和と公正を
すべての人に

共同教育学部 准教授 おのせ よしゆき 小野瀬 善行

教職大学院 教育実践高度化専攻

分野 教育制度 教員養成 学校改革

研究テーマ ・教員資格認定制度における日米比較研究
 - alternative route to teacher certificationを中心に-
 ・教職員の職能開発を促す学校経営
 ・教育改革と教育法制の研究

キーワード 教員資格認定制度, 教職員の職能開発, 学校経営, 教育法
 制, 教育改革, 校内研修

所属学会等 日本教育学会 日本教育経営学会 日本教師教育学会 日本教育制度学会
 日本教育行政学会

特記事項 子ども達の学びを支援するための学校や教職のあり方について、国際比較
 や法制度論の枠組みを用いて探究を進めています。



URL: -

TEL: 028-649-5348

Mail: yonose[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

教員の担い手不足が問題となる中で、誰をどのような方法で公教育を担う教員とするのか（教職に招き入れるのか）が課題となっています。誰が子ども達の教育を担うのか、それを誰がどのように認めていくのかが、現代的な課題になっているといえるでしょう。そのような問題関心から、教員養成制度や教員資格認定制度の問題を日米比較、法制度論の方法を用いて研究を進めています。

そして上記のような研究をベースにして、現在勤務している専門職学位課程（＝教職大学院）において、現職院生の教育実践プロジェクト（学校現場における長期実習）を支援する中で、教職員の職能開発を促す学校経営のあり方等を学校現場の先生方と共に実践的に探究しています。

教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

学校現場の教育実践に即応できる教科の専門性（Pedagogy）を私は持ち合わせていません。しかし、その実践がどのような意味や意義があるのかを考察するための社会科学としての教育学（science of education）の見方・考え方を学部や院生の学生さんや院生さんが育めるようにすることを教育・研究活動の柱にしています。そのためにも「社会科学としての教育学」を自らの強みとしたいと願い、日々、教育・研究活動に当たっています。

今後の展望

学校現場において、子ども達の学びを支え、そこから学ぶ教育の制度や組織のあり方を体系的に探究しながら、学校現場の子ども達や先生方が元気になれる、希望を語れるような仕事をしたいと考えています。そのためにも学校現場から多くのことを学びたいと思っておりますので、学校現場でお手伝いできることがあれば、お声がけをいただければと思っています。

社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

下野市小中一貫教育推進協議会 会長
 下野市学校適性配置推進協議会 会長
 栃木県立日光明峰高等学校学校運営協議会 会長
 教育行政や学校運営、校内研修等でお手伝いできることがあれば積極的に対応します。

分野 声楽、音楽教育学

研究テーマ ・声楽発声法
・音楽教育学
・オペラ作品研究

キーワード 声楽、音楽教育、オペラ

所属学会等 日本音楽教育学会、日本音響学会、日本・ロシア音楽家協会

特記事項 パテラPosture-analyzer PTS-910 [姿勢解析システム]



URL: -

Mail: koharas [at] cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

声楽演奏(バス・バリトン)

コンサートや公開講座の演奏や作品紹介活動の実践及び演奏姿勢に着目した声楽発声の理論研究。
ロシアの声楽作品を中心に日本・ロシア音楽家協会主催公演等に出演。

オペラ作品研究

19世紀を中心に各国の作曲家によるオペラ作品の教材化に関する研究を行なっています。

音楽教育

演奏活動・作品研究の経験を音楽教育研究に結びつけています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

共同教育学部の「声楽A,B」「声楽アンサンブル」や、地域創生科学研究科・地域人間発達支援学プログラムの「音声デザイン支援論」など、個人やグループによるレッスンを含めた声楽の実技指導を行なっています。音楽科教育に関係する「初等音学科指導法」「中等音楽科指導法A」「中等音楽科内容構成研究」の科目では、演奏表現を含む音楽科の内容の特色をふまえた授業を心がけています。教育学研究科(教職大学院)では「授業実践基礎」「教科教育研究論」等を担当し、これまで行ってきた劇音楽作品の教材研究や、音楽芸術に関わる演奏経験から得た表現活動の特色も教育・研究に生かすことを大切にしています。

今後の展望

声楽演奏の領域では、声楽発声の音声研究及び声楽発声時の姿勢に着目した評価方法について研究を行い、演奏や発声指導などの音楽活動を通してその成果を還元したい。また、オペラの作品研究と公開講座等での鑑賞の実践等により、総合芸術である劇音楽作品の魅力を伝えたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

地域の音楽・芸術文化に関わる教育活動支援

オペラ鑑賞講座

(宇都宮大学公開講座,放送大学,日本女子大学生涯学習センター,早稲田大学エクステンションセンター他)

歌唱講座・歌唱指導

(西生田合唱団常任指揮者,日本女子大学生涯学習センター他)

3 すべての人に健康と福祉を

4 質の高い教育をみんなに

10 人や国の不平等をなくそう

16 平和と公正をすべての人に

分野 特別支援教育

研究テーマ

- ・通常の学級における特別支援教育
- ・多様な学習者による互恵的な学び
- ・ヴィゴツキーの理論に基づく授業分析

キーワード インクルーシブ教育, 授業研究, 互恵的な学び, 質的研究, 対話

所属学会等 日本特殊教育学会, 日本質的心理学会, 日本教育心理学会, 日本発達心理学会, 日本教師学学会など

特記事項 —



URL: -

Mail: shijo[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

通常の学級において、支援が必要とされる子どもも含めて多様な子どもたちが学び合う授業のあり方について研究を行っています。子どもたちが「えっ?」「それ何?」「どういうこと?」とお互いの考えや発言に揺さぶられることが、学びにどう影響を与えるのかについて考えています。また、それを教師がどのように支えているのか、どんな教材がそれらの場面を引き出すのか等に関しても興味があります。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

実際に授業や子どもたちの様子を観察し、そこから得られる質的データの分析を中心に研究しています。授業の談話分析やエピソード分析等の手法を使っています。教職大学院の院生をはじめ学校の現職教員の皆さんと、学校現場の課題に取り組む実践研究も行っています。

今後の展望

インクルーシブな授業を可能にする条件、特に教師の即興性について興味をもっています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

学校等の研修会や事例検討会で先生方と一緒に子どもたちへの支援や授業のあり方について考えています。現職の先生方との継続した学習会も行っています。また、高校での生徒向けの講演会では多様性を生かす共生社会のあり方等について話をしています。



教職大学院 教育実践高度化専攻

分野 英語教育学, 授業研究**研究テーマ**

- ・ 授業研究 (英語を中心として)
- ・ 英語教員の成長 (教員研修・同僚性)
- ・ 校内研修

キーワード 小・中・高の英語授業改善, 英語教育における小中高連携
英語教員研修**所属学会等** 全国英語教育学会, 関東甲信越英語教育学会, 中部地区英語教育学会, 小学校英語教育学会, 日本児童英語教育学会, 英語授業研究学会**特記事項** 2020,2019年度NHKラジオ基礎英語 1 講師
2018,2017年度NHKラジオ基礎英語 2 講師
日本英語検定協会講師, ELEC英語教育協議会講師

URL: -

TEL: 028-649-5269

Mail: tamuratakamitsu[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

英語授業の在り方について研究しています。小中高の英語授業を参観して分析したり, 学習者の視点から授業を見つめたりします。また, 英語教員の成長や, 英語教員集団の同僚性, 教員(校内)研修についても関心を持っています。近年は, 英語指導主事の研修, 検定教科書の使い方などについても研究を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

2017年度まで24年間中学校で勤務をしていました。そのため, 大学での学びと現場での教育活動とをつなぐことができるのが強みです。学部の授業では, 教育実習に出る前に, 様々な指導法や学習指導案の書き方について具体的に学びます。教育実習後には, 実習のリフレクションを行いながら, 英語授業の在り方についてさらに深く掘り下げ, ディスカッションをします。全国各地の優れた授業映像を視聴し, 受講者とともにディスカッションを行っています。

教職大学院では, 授業力の向上だけでなく, 個々の児童生徒への対応や学校改革力の向上を目指した授業を数多く担当しています。現職派遣教員の院生, 学部卒院生とともに対話的な学びを展開しています。

今後の展望

県内外の学校, 教室を訪問して授業観察を続けていきます。学生が, 教員の魅力を感じ取ってくれることにつながるよう, 学生と共に参観し, 学び合います。

授業改善を目指した現場教員の声に耳を傾け, その学校, 教室, 教員や学習者のニーズに合った関わりをしていきます。ゲストとしてではなく, メンバーの一人として関わります。宇都宮大学が目指す地域に根ざし, 地域とともに歩む関わりを実践していきます。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

NHKラジオ基礎英語講師, 日本英語検定協会講師などを務めてきた経験から, 全国の様々な研修会での講師などを担当しています。会の規模の大小にかかわらず, みなさんのもとに駆けつけます。どうぞお声かけください。



分野 理科教育学

研究テーマ

- ・理科教育課程編成
- ・理科を中心とするカリキュラム開発
- ・授業研究

キーワード 理科, 授業研究, 教師教育

所属学会等 日本理科教育学会、日本科学教育学会、日本教科教育学会、
National Science Teaching Association (アメリカ)

特記事項 —



URL: -

Mail: hitomi[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

理科の教育課程編成に関心をもち、日本の学習指導要領の変遷などをもとに理科の学習内の変化を調べたり、アメリカの初等中等科学教育プログラムの特徴などを分析したりしています。理科を中心としたカリキュラム開発として、小・中学校理科の系統性、理科と他教科との教科間連携の授業づくりなども進めています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

教員養成を担う教員として、教員養成と教師教育に積極的にかかわりをもつようにしています。学習指導案づくりと教材選定への助言、教育実習における指導助言、大学院生の教育実践における指導助言などには、一年を通してかかわっています。小・中学校等における授業研究、理科を中心とした教員研修には、助言者として長年携わっています。

今後の展望

研究から得られた知見と授業実践等から得られる知見について、それぞれの特質をとらえ、相互に関係づけられるような研究に取り組みたいと考えています。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

学校における教員研修、理科の観察・実験の指導など

**分野** 数学教育学**研究テーマ** ・ 比例的推論の基礎を育てる授業のデザイン研究
・ 数学の授業の国際比較研究
・ 数学教師の成長について**キーワード** 算数・数学科の学習指導**所属学会等** 日本数学教育学会, 日本科学教育学会, 全国数学教育学会**特記事項** 学校現場の先生方と協働して算数・数学授業の開発や実践を行っています。

URL: -

TEL: 028-649-5292

Mail: khino[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

<小学校下学年において比例的推論の基礎を育てる授業のデザイン研究>

比例的推論は、二量の間の比例関係に基づいて、一方が○倍になると他方も○倍になること等を使って問題を解決していく考えです。比例関係は、小学校高学年で学ぶ変化や対応の関係であり、中学校以降の関数の学習へ繋がっていきます。この研究では、小学校教師と協働で、小学校下学年の児童に対して、比例的推論の基礎を育てていくための授業をデザインし、実際に指導を行い改善していく中で、児童の思考の様子を調べ、また、教材や指導の仕方についての示唆を得て行くことを目指しています。

<数学の授業の国際比較研究>

数学は世界各国で教えられている内容に類似性が高く、以前から国際比較が行われてきています。1990年代には、TIMSSの付帯調査として中学校2年生を対象にしたビデオ調査が行われ、日本の授業の特徴等についても関心を持って調べられてきています。この研究では、日本の問題解決型授業について、その特徴とともに、そうした授業の中での子どもの学びの様子を捉えていくことを目指して、熟練教師の授業の記録と分析を行っています。

<数学教師の成長について>

教師が算数や数学の授業実践力を高めていく過程に関心を持って、宇都宮大学に派遣される現職の教員とともに研修・研究を行っています。

教育・研究活動の紹介 (特徴と強み等)

宇都宮大学教職大学院の専任教員として、「算数・数学授業デザイン論」「教材開発と教育方法の実践と課題」「授業実践基礎」等の授業を担当しています。地域の学校で長期実習を行う大学院生（現職教員を含む）、また、大学生とのゼミを通して、教育・研究活動を行っています。

今後の展望

学校現場の先生方との協働研究を更に進めていきたいです。その延長として、教員向けワークショップや研修プログラムも考えてみたいと思います。

社会貢献等 (社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等)

算数・数学教育に関して講演や研修を行ったり、小・中学校の授業研究会で助言を行ったりしています。

4 質の高い教育を
みんなに

5 ジェンダー平等を
実現しよう

10 人や国の不平等を
なくそう

16 平和と公正を
すべての人に

分野 教育学（道德教育）

研究テーマ

- ・ 道德教育の研究
- ・ 道德科の授業づくり
- ・ 教材研究、教材開発

キーワード 道德教育、「特別の教科 道德」

所属学会等 日本道德教育学会 新しい道德教育を考える会

特記事項 小中学校で道德授業を行っています。



URL: -

TEL:028-649-5335

Mail: wainai[at]cc.utsunomiya-u.ac.jp

研究概要

「特別の教科 道德」（道德科）が誕生し、「考える道德」「議論する道德」が求められています。児童生徒が主体的に議論する道德授業にしていくためにはどのようにすればよいのか、授業デザイン、授業方法、教材論、授業評価などの研究に取り組んでいます。また、次世代を担う子供たちにはどのような力をつけていけばよいのか、従来の道德授業では不可能な、新しい道德授業の在り方についても追究しています。

教育・研究活動の紹介 （特徴と強み等）

長年、大学の附属小学校教諭として勤務し、道德教育と道德授業、学級経営について実践的な研究に取り組んできました。これまでの経験などを生かし、学部では「教育原論／道德教育授業論」「道德授業論」などの、教職大学院では「カリキュラム開発の実践と課題」「道德授業デザイン論」などの授業を担当しています。

県内外の小中学校での授業研究会や研修会に参加して、現場の先生方と授業実践研究を進めています。私が小中学生を相手に提案授業を行う機会も数多くあります。子供にとって魅力のある学びとは？について、現場の先生方と実際の子供の姿を通して議論することはとても大切なことだと考えています。

今後の展望

提案授業では、3人グループをもとに児童生徒自身が学習を進める「トリオ学習」を行っています。基本的にはクラス全員が発言し合う対話型の授業スタイルです。多くの先生方に観てもらいながら研究を進めていきたいと考えています。

社会貢献等 （社会活動 特許等取得状況 産学連携・技術移転の対応等）

小中学校における授業研究会や教育委員会が開催する教員研修会、研究発表会等で助言や講話、講演を行っています。